

專 門 分 野

基礎看護学

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護コミュニケーション	専任教員	時間数	1 5 時間	3 年次
学習目標（ねらい）				
1. さまざまな発達段階、状況にある対象および多職種との関係形成を構築するコミュニケーションができる。				
2. 対人関係の振り返りの必要性を理解し自己のコミュニケーションを振り返る（リフレクション）ことができる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	さまざまな看護場面において患者を支える人間関係について事例から考え理解できる ・クリティカルな状況 ・慢性期疾患を抱え生活する状況 ・死に向かう患者と看護師の関わりの実際より		演習 グループ ワーク	テキスト 10 章の事例検討を発表
2	さまざまな看護場面において患者を支える人間関係について事例から考え理解できる ・事例よりグループ発表		演習 グループ ワーク	テキスト 10 章の事例検討を発表
3	さまざまな看護場面において家族を含めた人間関係について事例から考え理解できる ・病児の母親の不安が引き起こす家族への影響の実際より ・認知症の夫の在宅ケアで生じた妻の心理より		演習 グループ ワーク	テキスト 12 章の事例検討を発表
4	さまざまな看護場面において地域をつくる人間関係及びチームにおけるコミュニケーションについて事例から考え理解できる ・地域の資源を患者につなぐ ・医師－看護師間のコミュニケーション		演習 グループ ワーク	テキスト 13 章の事例・P153 事例検討を発表
5	さまざまな看護場面における、患者を支える人間関係について自己のかかわり実際を振り返り考え理解できる ・実習事例から考える～リフレクション プロセスレコードより		演習 個人 ワーク	領域別実習からの事例を各自取り上げその実際を振り返る
6	さまざまな看護場面における、患者を支える人間関係について自己のかかわりの実際を振り返り考え理解できる ・実習事例から考える～リフレクション プロセスレコードより振り返りグループワーク		演習 グループ ワーク	
7	さまざまな看護場面における、患者を支える人間関係について自己のかかわりの実際を振り返り考え理解できる ・グループワークより取り上げた事例のロールプレイリフレクション プロセスレコードにての振り返りレポート提出		演習 グループ ワーク	講義終了後レポート提出
8	終講試験			課題文
評価方法 課題文 60% 課題達成度 40%			テキスト・参考書等 人間関係論（医）	
備 考 ・コミュニケーション論、コミュニケーションとスキルで学んだことを想起して、看護コミュニケーションにいかしていく。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護学概論	専任教員 2 6 H 野上 拓也 4 H	時間数	3 0 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
1. 看護の本質、役割と機能、継続性について学び看護とは何かを考える態度を身につける。				
2. （基礎分野のペースを活用しながら）看護の対象である人間、生活と健康のとらえ方について具体的に学ぶ。				
3. 看護職の養成と就業、教育と課題について学び看護職とは何か考える態度を身につける。				
4. 看護職の持つ倫理規定、医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、その活用を考える。				
5. 社会においてサービスとして提供される看護のしくみを理解する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	1. 看護とは 1) 看護の本質 ①看護の変遷		講義	
2	②法等における看護の定義		講義 演習	
3	③看護理論家にみる看護の定義		講義 演習	
4	④看護理論家にみる看護の定義		講義 演習	
5	2) 看護の役割と機能 ①看護ケアについて		講義	
6	②看護実践とその質保証に必要な要件 ③看護の継続性と連携		講義 GW	グループ発表を行う
7	2. 看護の対象の理解 1) 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 2) 発達し続ける存在としての人間の理解 3) 人間の「暮らし」の理解		講義 GW	
8	3. 国民の健康状態と生活 1) 健康の捉え方 2) 国民の健康状態		講義 個人 W 単元 test	
9	4. 看護の提供者 1) 職業としての看護		講義 演習	戴灯式への繋がり
10	2) 看護者の資格・養成制度・就業制度状況 3) 看護職の養成制度の課題		講義 DVD	キャリア形成のイメージ化
11	5. 看護における倫理 1) 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理		講義 GW	
12	2) 看護実践における倫理問題への取り組み		講義 GW 討議	アドボケイトとしての態度形成
13	6. 看護提供の仕組み 1) サービスとしての看護 2) 提供の場 3) 看護制度と政策		講義	
14	4) 看護サービスの管理 5) 基礎的な医療安全と医療の質保証		講義	
15	終講試験			
評価方法 筆記試験 80% 課題達成度 20%			テキスト・参考書等 看護学概論 医学書院 看護覚書 現代社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会	
備考 ・看護とは何か、看護職とは何かを学ぶ科目であり、看護を志す初学者としての基本となる姿勢・考え方を身につけ、自分の看護観を深めていけるよう積極的な取り組みを期待する。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護過程展開の技術	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 看護実践の方法として看護過程の意義、構成要素を理解し、看護問題を科学的に解決するための思考づくりと問題解決方法の基盤を習得する。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	看護過程の意義と看護過程の基盤となる考え方が理解できる	個人ワーク 講義	主体的に思考し 学ぶこと	
2	看護過程の各段階において、具体的内容とその実践方法について理解できる	講義		
3	看護計画立案の方法が理解できる	講義		
4	看護実践の方法としての看護過程の展開が理解できる ・関連図・看護記録・観察・報告（SBAR の活用）	講義 演習		
5	看護実践の方法としての看護過程の展開が理解できる ・ヘンダーソンの看護論・事例紹介	講義	事例展開に必要な自主学習を行 ってのぞむ	
6	看護における情報収集の視点を理解し明確化できる ・基本的欲求 14 項目による情報収集・関連図の作成	講義		
7	基本的欲求 14 項目において未充足のアセスメントができる	講義		
8	看護問題の明確化と優先順位について理解できる	講義		
9	看護計画の立案方法が理解できる 援助の実施・評価の考え方が理解できる	講義		
10	事例演習 基本的情報の収集ができ、情報の必要性が理解できる 基本的欲求 14 項目に沿って情報の明確化が理解でき、充足・未充足について考えることできる	演習		
11	事例の全体像を把握、病態関連図の作成、看護問題の抽出 ができる	演習		
12	看護問題の明確化ができる ・情報の分析・看護問題の明確化・優先順位の確定	演習		
13	看護計画の立案ができる	演習		
14	看護計画の実施・評価ができる 看護記録について理解ができる	演習		
15	まとめと終講試験	筆記試験		
評価方法 筆記試験 60% 課題達成度 40%		テキスト・参考書等 （医）基礎看護技術Ⅰ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践		
備考 ・看護過程は看護における思考力を高め質の良い看護の実践を目指す。自ら主体的に思考を高め、考えたことを他者に表現していくことが必要である。 ・様々な知識を必要とするので、テキスト以外にも参考書を活用する。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
食事と排泄の援助技術	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
人間にとっての「食べる」と「排泄する」を理解し、対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	人間にとっての「食べる」の意義と基礎知識が理解できる		講義	
2	栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントができる		講義	
3	食事の援助の基本的知識・技術が理解できる		講義	
4	経口摂取に問題のある対象への援助方法が理解できる		講義	
5	嚥下障害のある対象への援助方法が理解できる		講義	
6	経口摂取が困難な対象への援助方法が理解できる ・経管栄養法・中心静脈栄養法		講義	
7	対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎知識・技術・態度を理解し、安全・安楽を考え実施できる ・ベッド上での食事介助		演習	
8	人間にとっての「排泄する」の意義と基礎知識が理解できる		講義	
9	排泄のアセスメントを理解し、排泄の援助方法が理解できる ・排泄ケアの種類（トイレ、ポータブルトイレ、床上排泄、おむつ交換の援助）		講義	
10	排便機能障害に関する基礎知識とその援助技術が理解できる ・排便障害の基礎知識・援助技術・浣腸・摘便・ストーマケア		講義	
11	排尿機能障害に関する基礎知識とその援助技術が理解できる ・排尿障害の基礎知識・援助技術・持続的導尿・一時的導尿		講義	
12	対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎知識・技術・態度を理解し、安全・安楽を考え実施できる ・おむつ交換・陰部洗浄・床上排泄・ポータブルトイレの援助		演習	
13	対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎知識・技術・態度を理解し、安全・安楽を考え実施できる ・おむつ交換・陰部洗浄・床上排泄・ポータブルトイレの助助		演習	
14	対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎知識・技術・態度を理解し、安全・安楽を考え実施できる ・持続的導尿・一時的導尿		講義 演習	
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法			テキスト・参考書等	
筆記試験	80%	基礎看護技術Ⅱ（医）		
課題・演習態度等	20%	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医）		
備考				
消化器系、泌尿器系の知識をもとに看護の知識、技術を習得する。しっかり復習して望むこと。演習においては、身だしなみ・態度等も評価に含み、身だしなみが整わない場合は、演習はできない。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
活動と休息の援助技術	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
人間にとっての活動と休息の意義を理解し、対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	活動の意義、姿勢の基本知識が理解できる		講義	自己の活動記録（事前課題）
2	人間にとっての活動を理解し、活動の援助技術の基礎知識が理解できる		講義	
3	体位変換・ポジショニングの基礎知識・技術が理解できる		講義	
4	体位変換の基礎知識を理解し、安全・安楽を考え実施できる ・水平移動・仰臥位から側臥位・仰臥位から長座位・仰臥位から端座位・上方移動		演習	動画を視聴し技術確認（事前課題）
5	移動・移送の援助技術の基礎知識・技術が理解できる		講義	
6	移動・移送の援助技術を理解し、安全・安楽を考え実施できる		演習	動画を視聴し技術確認（事前課題）
7	移動・移送の援助技術を理解し、安全・安楽を考え実施できる		演習	動画を視聴し技術確認（事前課題）
8	対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎知識・技術・態度を理解し、安全・安楽を考え実施できる		演習	動画を視聴し技術確認（事前課題）
9	対象の状態に適した援助を行うために必要な基礎知識・技術・態度を理解し、安全・安楽を考え実施できる		演習	動画を視聴し技術確認（事前課題）
10	移動・移送の援助技術の基礎知識・技術が理解できる ・ストレッチャーへの移乗・移送援助・歩行の援助		講義 演習	動画を視聴し技術確認（事前課題）
11	人間にとっての睡眠・休息・安楽を理解し、睡眠・休息の援助技術の基礎知識が理解できる		講義	自己の休息記録（事前課題）
12	睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠障害のある対象への援助技術が理解できる		講義	
13	褥法の種類と身体に及ぼす影響を理解し、温電法・冷電法の援助を行うための基礎知識・技術が理解できる		講義	
14	対象の状態に適した電法の援助技術を理解し、安全・安楽を考え実施できる		演習	動画を視聴し技術確認（事前課題）
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 80% 課題・演習態度等 20%			テキスト・参考書等 基礎看護技術Ⅱ（医） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医）	
備考 ・自己学習や放課後、夏期休暇などの時間を活用し、技術演習に励み技術向上を目指す。 ・演習においては、身だしなみ・態度等も評価に含み、身だしなみが整わない場合は、演習はできない。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
環境と清潔の援助技術	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
1. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。				
2. 清潔及び衣類を用いる意義を理解し、充足のための援助技術が習得できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	療養生活における環境について基礎知識が理解できる 病室・病床環境のアセスメントと調整について理解できる		講義	
2	必要な基礎的知識・技術・態度を理解しベッドメイキングと臥床患者のリネン交換を実施できる ・ベッドメイキング・臥床患者のリネン交換 ・環境整備		デモスト 演習	演習内容の予習 演習準備の確認
3	必要な基礎的知識・技術・態度を理解しベッドメイキングと臥床患者のリネン交換を実施できる ・ベッドメイキング・臥床患者のリネン交換 ・環境整備		演習	技術試験予定は 講義の中で伝達
4	技術試験 ・ベッドメイキング		実技試験	
5	清潔援助の基礎知識を理解できる 清潔援助の実際について理解できる ・入浴・シャワー浴　・全身清拭		講義	
6	病床での衣生活の援助について理解できる		講義	
7	必要な基礎的知識・技術・態度を理解し安全安楽に臥床患者の全身清拭・寝衣交換を実施できる		デモスト 学内演習	
8	陰部洗浄の基礎知識が理解できる		講義 デモスト	* 陰部洗浄演習は排泄演習時に行う
9	洗髪の基礎知識と援助の実際について理解できる		講義	
10	必要な基礎的知識・技術・態度を理解し臥床患者の洗髪を実施（ケリーパッド）できる		演習	演習内容の予習 演習準備の確認
11	手浴・足浴の基礎知識と援助の実際を理解できる		講義	
12	必要な知識・技術・態度を理解し安全安楽に足浴を実施できる		演習	演習内容の予習 演習準備の確認
13	口腔ケアの基礎知識が理解できる		講義 演習	演習内容の予習 演習準備の確認
14	技術試験 ・全身清拭		実技試験	技術試験に関する ことは講義の中で 伝達する
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 評価：環境 30%、清潔・衣生活 70%の合計 100% 環境（筆記試験 20%　技術試験 10%） 清潔・衣生活（筆記試験 40%　技術試験 20%　課題 10%）			テキスト・参考書等 基礎看護技術Ⅱ（医） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医）	
備考 ・ 環境・身体を清潔にすることは生活者である人間にとって大切な日常生活行動である。形態機能で学んだ知識を想起し、アセスメントに活かすこと。 ・ 技術の習得には自己練習が大切です。繰り返し自己練習を行い、身につけていくように取り組む。				
実務経験　看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
フィジカルアセスメント	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
1. バイタルサインの意義を理解し、バイタルサイン測定 of 技術を習得することができる。				
2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解し、フィジカルアセスメント of 技術を習得し、活用することができる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	1. ヘルスアセスメント 1) ヘルスアセスメントとは 2) ヘルスアセスメントに必要な技術		課題レポート 講義 動画視聴	
2	2. ヘルスアセスメントの実際 1) バイタルサインとは 2) 体温測定の目的と技術の実際		講義 動画視聴	
3	3) 脈拍測定の目的と技術の実際		講義 動画視聴	
4	4) 呼吸測定の目的と技術の実際		講義 動画視聴	
5	5) 血圧測定の目的と技術の実際		講義 動画視聴	
6	演習：バイタルサイン測定		演習	
7	実技試験：バイタルサイン測定		実技試験	
8	3. フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントとは 2) フィジカルアセスメントに必要な技術		課題レポート 講義 動画視聴	
9	4. フィジカルアセスメントの実際 1) 腹部のフィジカルアセスメント		講義 動画視聴	
10	2) 呼吸器系のフィジカルアセスメント		講義 動画視聴	
11	3) 循環器系のフィジカルアセスメント		講義 動画視聴	
12	4) 神経系のフィジカルアセスメント		講義 動画視聴	
13	演習：フィジカルアセスメント（問診・視診・触診・打診・聴診）		演習	
14	演習：フィジカルアセスメント（問診・視診・触診・打診・聴診）		演習 シミュレーション	
15	終講試験及びまとめ		筆記試験	
評価方法		テキスト・参考書等		
筆記試験	70%	基礎看護技術Ⅰ 医学書院		
実技試験	20%	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
課題レポート	10%	看護がみえる③フィジカルアセスメント メディックメディア		
備考				
・人体の構造と機能で学んだ恒常性維持のための「流通機能」・「調整機能」・「息をする」などの学習を想起してアセスメントできるようにする。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
感染予防と安全を守る技術	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 1. 看護における技術の考え方を理解できる。 2. 感染防止の意義を理解し、感染防止のための技術を習得できる。 3. 対象の安全を守るための基礎的知識を理解し、安全を守る技術を習得できる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	看護における「技術とはなにか」について考え理解できる	講義		
2	感染とその予防の基礎知識が理解できる	講義		
3	感染防止技術の標準予防策（スタンダードプリコーション）について理解できる	講義		
4	必要な手指衛生（手洗い・手指消毒）、個人防護用具の取り扱いが適切に実践できる	演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
5	感染防止技術の感染経路別予防策について理解できる	講義		
6	洗浄・消毒・滅菌について学びその実際について理解できる	講義		
7	無菌操作の基礎知識を学び対策の実際を理解できる	講義		
8	感染性廃棄物の基礎知識を学び対策の実際を理解できる 針刺し防止策、感染管理について理解できる	講義		
9	ガウンテクニック・滅菌手袋着用を正しく実践できる	演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
10	医療施設における感染管理について理解できる 医療の安全確保における基礎知識を学び理解できる	講義		
11	医療における安全確保の実際について理解できる ・誤薬防止 ・患者誤認防止 ・転倒転落防止 ・チューブトラブル防止	講義		
12	看護業務上の危険について知り、薬剤・放射線暴露の防止について理解できる	講義		
13	無菌操作（鑷子・滅菌物の取り扱い）が正しく実施できる	演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
14	無菌操作（鑷子・滅菌物の取り扱い）が正しく実施できる	演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
15	まとめと終講試験	筆記試験		
評価方法 筆記試験 90% 課題レポート 10%		テキスト・参考書等 基礎看護技術Ⅰ（医） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医）		
備 考 ・この授業は感染防止を含めた安全確保の重要な看護技術の土台となる共通基本技術である。基礎を修得し、他専門分野、統合分野へと発展させていくこと。 ・微生物学、看護のための薬理学で学んだことも想起して、看護の安全にいかしていく。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う。				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
検査・与薬の援助技術	専任教員 30H	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 1. 検査の目的を理解し、援助方法がわかる。 2. 診察の援助の目的と対象の心理を理解し、援助方法が理解できる。 3. 与薬の目的を理解し、適切な援助方法がわかる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	診察、検査・処置時の援助の目的とその実際について理解できる	講義		
2	検体検査、生体情報モニタリングについて理解できる	講義		
3	検査・検査処置の実際とその看護について理解できる	講義		
4	内視鏡検査（上部消化管・下部消化管）の実際と看護について理解できる	講義		
5	検体検査の実際について理解できる ・尿検査 便検査 喀痰検査 血液検査	講義 演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
6	穿刺の実際と看護について理解できる	講義		
7	血液検査における静脈血採血の実際が理解できる	講義		
8	採血について知識・技術・態度を理解し血液検査における採血が安全に実施できる	デモスト 演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
9	与薬の基礎知識を理解できる ・薬物の特徴・看護師の役割 ・おもな与薬方法（経口薬 点眼 吸入 皮膚貼付 注射など）	講義		
10	薬物の管理について理解できる ・毒薬・麻薬・劇薬の取り扱い 注射方法・注射における安全管理について理解できる	講義		
11	注射法のアンプル・バイヤルの取り扱い、注射器具の取り扱いが理解できる	講義 演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
12	静脈内注射の基礎知識と援助方法が理解できる	講義 デモスト		
13	輸血管理について援助の実際を知ることができる 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いについて知ることができる	講義 デモスト		
14	与薬における注射の基本技術を理解し安全に注射が実施できる	演習	演習内容の予習 演習準備の確認	
15	まとめと終講試験	筆記試験		
評価方法		テキスト・参考書等 基礎看護技術Ⅱ（医） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医）		
筆記試験 80% 課題・演習態度等 20%				
備考	検査、与薬における看護とは何かを学び、看護実践のリスクを考え必要な援助技術を身につける。安全に留意し技術を習得していく。			
実務経験	看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
治療・処置・救急救命 の援助技術	専任教員 2 2 H 安藤美佐 8 H	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
1. 呼吸・循環を整える技術と放射線治療法の目的と方法を理解し、援助の実際について学ぶことができる。				
2. 救急対応の考え方、急変時の対応について理解し、心肺蘇生法の基礎知識と一次救命処置の実際を学ぶことができる。				
3. 創傷管理の基礎を理解し、創傷処理（包帯法等）や褥瘡予防方法について学ぶことができる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	1. 呼吸・循環を整える技術 1) 酸素吸入療法の基礎知識と実際	講義		
2	2) 排痰・吸入ケアの基礎知識と実際：演習	講義 演習		
3	3) 胸腔ドレナージの基礎知識と実際	講義		
4	4) 人工呼吸療法の基礎知識と実際	講義		
5	5) 体温管理療法の基礎知識と実際 6) 末梢循環促進ケアの基礎知識と実際	講義		
6	2. 放射線治療法における看護の理解	講義		
7	3. 救命救急処置技術 1) 救命救急処置の基礎知識	講義		
8	2) 心肺蘇生法・一次救命処置：演習	講義 演習		
9	3) 心肺蘇生法・一次救命処置：演習	講義 演習		
10	4) 止血法・院内急変時の対応	講義 演習		
11	4. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識	講義		
12	2) 創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）：演習	講義 演習		
13	3) ドレイン類の挿入部の処置の基礎知識と実際	講義		
14	4) 褥瘡予防の基礎知識と実際	講義		
15	終講試験及びまとめ	講義		
評価方法 筆記試験 90% 課題レポート 10%		テキスト・参考書等 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
備考 治療・処置・救急救命においての看護とは何かを学び、必要な援助技術を身につけます。形態機能学、医療安全などの知識を想起し、積極的に学習に取り組んでいく。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
臨床看護の基礎	廣森 五十鈴	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
1. 健康障害をもつ人の看護学的視点、経過に基づく患者の看護を理解する。				
2. 対象の症状や治療・検査の基礎的知識とともに、看護実践を展開するときの基本的な思考過程を理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	臨床看護を考える視点が理解できる 臨床推論・臨床判断の定義とプロセス・思考		講義	概念と定義
2	臨床判断モデルを用いた事例の気づき・気がかりの演習		講義 グループワーク	テキスト事例
3	事例 A による臨床判断につなげる気づきのワーク 予期・予測の演習		講義 個人ワーク	事例 A 課題
4	事例 A による気づきと反応		講義 グループワーク・発表	事例 A
5	事例 B による気づきと解釈 予期・予測の演習		講義 個人ワーク	事例 B 課題
6	事例 B による場面の展開・方向性		講義 グループワーク	事例 B
7	対象のとらえ方 人のライフサイクルからとらえた看護		講義	
8	対象のとらえ方 健康障害の経過に基づく看護 （急性期・慢性期・リハビリテーション期・終末期）		講義	
9	対象のとらえ方 各発達段階の特徴・健康上のニーズと看護		講義	
10	主要症状 ・安楽に障害のある対象の看護 （発熱・疼痛・吐気・嘔吐）		講義	
11	主要症状 ・呼吸困難のある対象の看護 （呼吸苦・チアノーゼ・喘鳴）		講義	
12	主要症状 ・循環障害のある対象の看護 （ショック・血圧異常・浮腫・脱水）		講義	
13	対象の疾患・経過別・症状・治療・処置を関連付けて概要をつかむ		個人ワーク	事例 C
14	対象の疾患・経過別・症状・治療・処置を関連付けて概要をつかむ 臨床判断のまとめ		グループワーク	事例 C
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法			テキスト・参考書等	
筆記試験 70%			臨床看護総論（医）	
課題・グループワーク・個人ワークの取り組み 30%				
備考				
・様々な知識を必要とするため、テキスト以外にも参考書を活用していく。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目 基礎看護学実習Ⅰ (看護を知る実習)	担当講師名 専任教員	単位数 1単位 時間数 45時間	対象学年 1年次
学習目標 (ねらい) 1. 療養生活の実践を通して対象と療養環境、看護活動について概要を捉えることができる。 2. 対象との人間関係を成立させ、必要な日常生活行動の援助を安全、安楽に実践できる。			
単元：学習のねらい		学習内容 ・ 方法	
基礎看護学実習Ⅰ (看護を知る実習①) 2日間 目標： 1. 看護を必要としている対象を知ることができる 2. 対象のおかれている環境、生活の場を知ることができる 3. 対象の生活する場で行われている看護活動を知ることができる 4. 実習での学びを客観的に表現できる		方法：各施設の見学 ・療養者中心の生活から見た看護実践の多様な場と看護の活動について説明 ・各施設見学 ①介護老人保健施設 ②特別養護老人ホーム ③訪問看護ステーション ④グループホーム ⑤サービス付き高齢者向け住宅 ⑥病院 ・療養環境について見学、説明 ・療養生活の場で行われている看護活動の実際を知る ・毎日カンファレンスを行い学びを深める ・最終レポート 「見学実習を通して学んだこと」 ・最終レポートをもとに最終日は反省会を行う	
基礎看護学実習Ⅰ (看護を知る実習②) 4日間 目標： 1. 対象および対象を取り巻く人々と効果的なコミュニケーションをとることができる 2. 対象の日常生活行動における必要な援助に気付くことができる 3. 対象の日常生活行動における必要な援助計画を立案できる 4. 対象の状態に応じた日常生活行動の援助を安全・安楽・自立に配慮し実践できる 5. 観察・実施したことを適切に記録、報告できる 6. 対象への日常生活援助を通して学びを深めることができる		方法：各病院 ・初めての臨床の場であることに加え初めて一人の対象を受け持ち、既習の知識・技術に関連させて日常生活の援助を安全・安楽に実施する ・効果的なコミュニケーションを図るための態度、表情、言葉、場と時間の工夫を行う ・適宜助言指導を受け計画、実施、評価、修正、追加を行う ・学内で履修した講義を活用し、学生としての倫理をふまえ行動する ・事実を経時的に記録する。客観的な表現を用い、要領よく簡潔・明瞭・正確に報告できる ・看護についての自己の考えを述べられる ・毎日カンファレンスを行い学びを深める ・最終レポート 「対象への日常生活援助を通して、看護について考えたこと」 ・最終レポートをもとに最終日は反省会を行う	
評価方法 実習評価表 (ルーブリック評価) に基づいて評価する		テキスト・参考書等 基礎看護学実習Ⅰ要項 関連する文献	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う			

授業科目 基礎看護学実習Ⅱ (看護実践の基礎となる実習)	担当講師名 専任教員	単位数 2単位 時間数 90時間	対象学年 2年次
学習目標（ねらい） 看護の対象を理解し、一連の思考過程を踏まえながら必要な看護を実践するための基礎となる知識・技術・態度を習得できる。			
単元：学習のねらい		学習内容・方法	
1. 対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から捉え、個別性を把握できる 2. 対象の持つ看護上の問題を明確にし、必要な日常生活行動の援助計画を立案できる 3. 計画に基づいて安全・安楽・自立を考慮し援助を実施できる 4. 実施した看護援助の評価ができる 5. 看護の場におけるチームナーシングとその重要性を理解し、チームの一員としての役割と責任ある行動をとることができる 6. 実施した看護援助を振り返り、看護について考えることができる		各病院実習 ・オリエンテーション ・対象の健康障害に伴う日常生活の援助を看護過程の展開を通し考え実践する 1. 1人を受け持ち対象とする 2. ヘンダーソンの理論を活用し看護過程を展開する 3. 自己の行った看護に対する考えを振り返る 4. 毎日カンファレンスを行い、学びを深める。最終日は最終カンファレンスを行う ・実践外活動 実践場面を抽出しリフレクション ・学内全体反省会	
評価方法 実習評価表（ルーブリック評価）に基づいて評価する		テキスト・参考書等 基礎看護学実習要項 実習関連のテキスト・文献	
備考			
実務経験		看護師として培ってきた豊富な経験をもとに指導を行う	

地 域 ・ 在 宅 看 護 論

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
地域で生活する人を支える看護	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
地域で暮らす対象と、その生活を支えるための看護の基盤となる概念を理解する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	地域の中での暮らしを理解できる ・日本の地域看護の変遷と今後の課題		講義	
2	地域・在宅看護の基盤を理解できる ・地域・在宅看護の特徴		講義	
3	地域共生と地域包括ケアシステムを理解できる ・暮らしと生活を知る		グループ ワーク	
4	地域共生と地域包括ケアシステムを理解できる		グループ ワーク	
5	地域療養を支える看護の役割・機能を理解できる ・現状と課題		講義	
6	看護の対象としての家族を理解できる 看護学における家族の概念		講義	
7	家族を理解するための理論を理解できる 家族発達理論		講義	
8	家族を理解するための理論を理解できる 家族システム理論		講義	
9	家族を理解するための理論を理解できる ・家族ストレス対処理論		講義	
10	家族アセスメントの視点を理解できる ・理論を活用した事例の解釈		講義	
11	家族への支援内容を理解できる		講義	
12	地域システムの視点からの家族支援の必要性を理解できる		講義	
13	看護倫理の概要と活用を理解できる ・事例検討		グループ ワーク	
14	グループワーク発表 まとめ		グループ ワーク	
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 80％ 課題レポート 20％			テキスト・参考書等 (医) 地域・在宅看護の基盤 (医) 家族看護学	
備考				
実務経験				
看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う				

授業科目 在宅看護にかかわる法令・ 制度とその活用	担当講師名 高田 千春	単位数 1 単位 時間数 20 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 地域・在宅看護に関わる社会資源の活用を理解する。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	地域・在宅看護の提供にかかわる制度を理解できる ・介護保険、医療保険	講義	指示された学習 をして臨む
2	地域・在宅看護の提供にかかわる制度を理解できる ・障害者総合支援法・難病法	講義	指示された学習 をして臨む
3	地域・在宅看護の提供にかかわる制度を理解できる ・医療介護総合推進法・医療法	講義	指示された学習 をして臨む
4	地域・在宅看護に関わる医療提供体制を理解する ・生活圏内での医療体制	グループ ワーク	
5	訪問看護制度の概要と現状を知る ・訪問看護の制度と現状	講義	
6	訪問看護の提供方法と種類を理解できる	講義	
7	訪問看護サービスの展開を理解できる	講義	
8	在宅における権利保障を理解できる	講義	
9	在宅における法律問題を理解できる	講義	
10	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 90％ 課題レポート 10％		テキスト・参考書等 (医) 地域・在宅看護の基盤 (医) 地域・在宅看護の実践	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う			

授業科目 地域保健にかかわる看護		担当講師名 高田 千春	単位数 1 単位 時間数 20 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 地域の中で暮らす人々の健康を守る看護を理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	行政機関でおこなう看護の概要を理解できる ・公衆衛生看護の概要		講義	公衆衛生学での 学びと関連する
2	母と子に対する保健活動を理解できる 鹿児島市の現状と対策		講義	
3	成人に対する保健活動を理解できる 鹿児島市の現状と対策		講義	
4	がん対策における活動を理解できる 鹿児島市の現状と対策		講義	
5	地域住民に対する健康教育活動を理解できる 鹿児島市の現状と対策		講義	
6	高齢者に対する保健活動を理解できる 鹿児島市の現状と対策		講義	
7	精神の健康に対する保健活動を理解できる 鹿児島県の現状と対策		講義	
8	障害者・難病者に対する保健活動を理解できる 鹿児島県の現状と対策		講義	
9	学生・労働者に対する保健活動を理解する 鹿児島市の現状と対策		講義	
10	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100 %			テキスト・参考書等 (医) 地域・在宅看護の実践	
備考				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに授業を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護の介入時期と継続性	専任教員	時間数	30 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
療養の場の移行に伴う看護介入時期と継続性について理解することができる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	療養の場の移行時の看護の役割を理解できる ・患者・家族の意思決定支援と調整	講義		
2	療養の場の移行時の看護の役割を理解できる ・退院支援のプロセスとしくみ ・多職種との連携・協働を考える	講義		
3	退院支援のプロセスと退院支援に関するしくみ ・退院移行期の事例で検討 退院支援計画書作成	講義 GW		
4	退院支援計画書 グループワーク発表	GW		
5	おもな地域・在宅看護の実践の場 入退院における医療機関との連携を理解できる 住まいで提供される看護 地域のなかで提供される看護	講義		
6	地域・在宅看護における多職種連携 ・医療専門職との連携 ・福祉専門職との連携 ・多職種連携からのネットワークづくり	講義		
7	在宅看護過程の展開方法を理解できる 情報収集とアセスメント、看護課題の明確化、目標設定、 看護計画立案	講義		
8	事例の展開 ・がん末期、COPD、ASDL、心不全、脳性麻痺、パーキンソン病、統合失調症などの事例で看護過程作成	講義 GW		
9	事例の在宅看護の展開を行う	GW		
10	事例の在宅看護の展開を行う	GW		
11	事例の在宅看護の展開を行う	GW		
12	事例の在宅看護の展開を行う	GW		
13	在宅看護過程の発表	GW		
14	在宅看護過程の発表	GW		
15	まとめ	講義		
評価方法		テキスト・参考書等		
退院支援計画書の作成 10%		(医) 地域・在宅看護の基盤		
事例の在宅看護過程 80%		(医) 地域・在宅看護の実践		
グループワークの貢献度 10%				
備考				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに授業を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
在宅の生活を支える看護展開	専任教員	時間数	1 5 時間	3 年次
学習目標（ねらい）				
療養者と家族の健康状態に応じた地域・在宅看護の展開を主体的に思考することができる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	身体・心理的側面と社会的側面を生活環境と家族・介護状況の側面からの情報収集することができる		講義 個人ワーク	事前課題をして臨む
2	療養者の心理的側面から推察し、療養上の望みを中心にした療養生活全体の目標設定ができる		個人ワーク	
3	療養者の生活上の望みに影響すると予測される情報の解釈・判断し統合するアセスメントができる		個人ワーク	事前課題の活用と追加学習の実施
4	療養者の生活上の望みに影響すると予測される情報の解釈・判断し統合するアセスメントができる		個人ワーク グループワーク	
5	療養者の生活上の望みに影響すると予測される情報の解釈・判断し統合するアセスメントができる		個人ワーク	
6	家族や多職種と協働を意識して、健康維持と生活の継続ができるような援助計画の立案ができる		個人ワーク	
7	思考プロセスを、療養生活関連図に表現し他者に伝えることができる		個人ワーク	
8	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 40％ 課題レポート 60％			テキスト・参考書等 (医)地域・在宅看護の実践	
備考				
実務経験				
看護師として培った豊富な経験をもとに授業を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
在宅療養する人々の援助	川崎 幸栄子	時間数	30 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
地域・在宅で療養する人とその家族に必要な看護援助を理解できる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	在宅看護活動を支えるコミュニケーションについて理解できる	講義	臨床場面との違い	
2	訪問時に必要な基礎的なマナー技術を学ぶことができる	講義 グループワーク	一般的なマナーを学習しておく	
3	訪問時に必要な基礎的なマナー技術を理解できる ・初回訪問時の面接技術	演習		
4	在宅で求められる生活援助技術を理解できる ・基礎看護技術の応用	講義		
5	在宅で求められる生活技術の展開を理解できる ・状況に応じた生活援助の工夫	個人ワーク	基礎看護技術の復習をして臨む	
6	在宅で求められる生活技術の展開を理解できる ・状況に応じた生活援助の工夫	演習	在宅で準備可能な物品の選定	
7	在宅で求められる生活技術の展開を理解できる ・状況に応じた生活援助	演習		
8	在宅で求められる生活技術の展開を理解できる ・まとめ	講義		
9	在宅で求められる医療技術を理解できる	講義		
10	在宅で求められる医療技術を理解できる	講義		
11	在宅で求められる医療技術を理解できる	講義		
12	在宅で求められる医療技術を理解できる	講義		
13	在宅で求められる医療技術を理解できる ・経鼻経管栄養法	DVD 視聴 演習	体験学習で学びを深める	
14	在宅で求められる医療技術を理解できる	講義		
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 70 % 課題レポート 30 %		テキスト・参考書等 (医) 地域・在宅看護の実践		
備考				
実務経験				
看護師として培った豊富な経験をもとに授業を行う				

授業科目 地域で暮らす人を支える看護 実習	担当講師名 専任教員	単位数 2単位 時間数 90時間	対象学年 3年次
学習目標（ねらい） 地域で生活するあらゆる健康レベルの人と家族を理解し在宅看護に必要な知識・技術・態度を 習得できる。			
単元：学習のねらい		学習内容・方法	
保健センター実習（2日間） 目標： 1. 保健所・保健センターの概要を理解できる 2. 地域における健康管理と保健対策の実際を理解で きる		《保健センター》 ・保健センター主催のオリエンテーションに 参加し、保健所・保健センターの概要を学ぶ ・保健センターで計画されている事業へ参加 し、地域住民の健康管理への意識を知る ・事業実施後のカンファレンスに参加し多職種 連携の実際を知る	
居宅介護支援事業所実習（2日間） 目標： 1. 居宅介護支援事業所の活動を理解できる 2. 在宅療養生活に必要なケアマネジメントの実際を 理解できる		《居宅介護支援事業所》 ・家庭又は多機関への同行訪問、担当者会議や 事業所内でのカンファレンスに参加し在宅 療養支援体制の現状を知る ・保健センターと居宅介護支援事業所での学び から「在宅療養支援における多職種連携の課 題」についてレポートにまとめる	
訪問看護ステーション実習（7日間） 目標： 1. 地域で生活する療養者および家族を理解し、在 宅看護が展開できる 2. 生活の場に応じた看護援助を訪問看護師とともに 実施、見学できる 3. 療養者および家族に必要な社会資源の活用方法を 理解し、多職種との協働の中での看護の役割が理 解できる		《訪問看護ステーション》 ・訪問看護ステーションのオリエンテーション を受ける ・訪問看護ステーションの活動への参加し援助 場面から生活環境・健康や介護状態 にあわせた看護技術を学ぶ ・事例展開をとおして在宅看護の方向性を考察 し、社会資源の活用状況を学ぶ ・実践外活動において、看護展開に必要な学習 を深める	
評価方法 ルーブリック評価表に基づき評価する		テキスト・参考書等 地域で暮らす人を支える実習要項 関連する文献	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う			

成人看護学

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
成人の健康と看護	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
1. 成人期における対象の生涯発達の特徴をとらえ成人期の健康について生活の視点から多面的・包括的に理解する。				
2. 成人期の対象のセルフケア行動の促進、大人が危機を乗り越える過程とその支援のための看護アプローチについて理解する。				
3. 成人の健康レベルに応じた健康の保持増進・疾病の予防・回復に向けた看護の役割を理解する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	科目の位置づけ・進め方について 成人と生活 「成人」とは「大人」とは、についての概要を知る		講義	教科書の単元内容を事前に読み臨む
2	成長と発達 生涯発達の特徴や成人期の区分を理解できる		講義	成人期にある対象を生活者として捉える
3	成人期の発達段階の特徴と発達課題 （身体的・心理的・社会的・スピリチュアル）特徴を理解できる		講義・グループワーク	理論に基づく発達段階・課題を読み解く
4	成人の生活と健康 働いて営むことや成人の役割について理解できる		講義・グループワーク	仕事の意義・価値観等個人の体験を話す
5	人口静態・動態を調べ、成人の疾病と関連させて成人各期の健康問題について考えることができる		講義・グループワーク	調べた内容・背景を共有し考察する
6	成人への看護・アプローチの基本として、大人の学び：アンドラゴジーやエンパワーメントの実際を学ぶ		講義・グループワーク	大人の学習理論に基づき行動変容を促す
7	意思決定支援・家族支援について理解できる 対象者の選択権及び自己決定権を尊重し、対象者及び家族の意思決定を支援する方法を知る		講義 演習	事例を読み込み演習・意見交換で理解を深める
8	成人期のヘルスプロモーションと看護が理解できる		講義 演習	地域社会や職場において促進する看護を学ぶ
9	成人期における健康増進のための環境づくりが理解できる		講義 演習	健康増進のための施策を参照する
10	成人期における健康と健康に影響を与える要因を理解できる。健康バランスに影響を及ぼす要因を考える		講義 演習	ライフスタイルとストレスへの対処
11	成人期における健康と健康に影響を与える要因を理解できる。生活行動がもたらす健康問題と予防を考える		講義 演習	生活行動と疾病の繋がりを考える
12	障害がある人の生活とリハビリテーションの看護が理解できる		講義 演習	障害に向き合う過程の看護を考える
13	障害がある人とその生活を支援する看護が理解できる		講義 演習	障害を抱えたその人らしい看護を考える
14	療養の場を移行する人の看護が理解できる		講義 演習	多様な場での看護の役割と機能を知る
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 80 % 課題レポート 20 %			テキスト・参考書等 （医）成人看護学総論 国民衛生の動向	
備考 成人看護学の講義や実習の基盤となる科目である。 講義の内容を理解し、深めるためには事前にテキスト、事後では講義資料、参考書を読んで予習、復習をする。演習では主体的に参加しグループダイナミックスを活かした内容とする。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験を元に講義・演習を行う				

授業科目 呼吸と循環・血液・防御 機能に障害を持つ人の 看護	担当講師名 外来講師 16 H 専任教員 14 H	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 呼吸と循環・血液防御機能に障害のある対象の特徴を理解し、その状況に応じた看護が理解できる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸器疾患における患者の特徴と看護の役割が理解できる	講義	教科書の単元内容を事前に読み臨む
2	肺がん患者の看護が理解できる （胸腔ドレナージを受ける患者の看護含）	講義 小テスト 演習	肺がんの病態と症状の事前学習を行う
3	肺がん患者の看護が理解できる （胸腔ドレナージを受ける患者の看護含）	講義 小テスト 演習	肺がんの病態と症状の事前学習を行う
4	主要疾患の看護（慢性閉塞性疾患・肺血栓塞栓症）		
5	循環器疾患における患者の特徴と看護の役割が理解できる	講義	教科書の単元の内容を事前に読んでくこと
6	虚血性心疾患患者の看護が理解できる 安定冠状動脈疾患・急性冠症候群（経皮的冠状動脈インターベンション（PCI）	講義 小テスト 演習	虚血性心疾患の病態と症状について事前学習を行う
7	虚血性心疾患患者の看護が理解できる 安定冠状動脈疾患・急性冠症候群（経皮的冠状動脈インターベンション（PCI）	講義 小テスト 演習	虚血性心疾患の病態と症状について事前学習を行う
8	ペースメーカー埋め込み術を受ける患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	不整脈の病態と症状の事前学習を行う
9	血液・造血器疾患における患者の特徴と看護の役割が理解できる	講義 演習	教科書の単元内容を事前に読み臨む
10	貧血、出血性疾患患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	貧血、出血性疾患の病態と症状の事前学習を行う
11	DIC 患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	DIC の病態と症状の事前学習を行う
12	造血器腫瘍患者の看護が理解できる （悪性リンパ腫）	講義・演習 小テスト	造血器腫瘍の病態と症状の事前学習
13	防御機能に障害をもつ患者の経過と看護が理解できる	講義・演習 小テスト	教科書の単元内容を事前に読み臨む
14	HIV/AIDS の患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	HIV/AIDS の病態と症状の事前学習
15	まとめと終講試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験 80% 課題レポート 20%		テキスト・参考書等（医）呼吸器 （医）循環器（医）血液・造血器 （医）アレルギー・膠原病…	
備考 専門基礎分野の基礎知識（呼吸と循環・血液・造血器、防御機能）を元に看護の視点で講義が展開する。基礎的な知識を復習し講義に臨む。			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う			

授業科目 消化器と内分泌・代謝 に障害を持つ人の看護	担当講師名 専任教員	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 1. 消化器に障害のある対象の特徴を理解し、その状況に応じた基本的看護援助が理解できる。 2. 内分泌・代謝に障害のある対象の特徴を理解し、その状況に応じた基本的看護援助が理解できる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	消化器疾患における患者の特徴と看護の役割が理解できる	講義	教科書の単元内容を事前に読み臨む
2	胃がん患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	胃がんの病態と症状の事前学習
3	胃がん患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	胃がんの病態と症状の事前学習
4	大腸がん患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	大腸がんの病態と症状の事前学習
5	大腸がん患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	大腸がんの病態と症状の事前学習
6	肝硬変患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	肝硬変の病態と症状の事前学習
7	肝硬変患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	肝硬変の病態と症状の事前学習
8	胆石患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	胆石の病態と症状の事前学習を行う
9	胆石患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	胆石の病態と症状の事前学習を行う
10	代謝・内分泌疾患をもつ患者の経過と看護が理解できる 糖尿病患者の看護が理解できる	講義	糖尿病の病態と症状の事前学習
11	糖尿病患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	糖尿病の病態と症状の事前学習
12	脂質異常症患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	脂質異常の病態と症状の事前学習
13	甲状腺疾患患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	甲状腺疾患の病態と症状の事前学習
14	副腎疾患患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	副腎疾患の病態と症状の事前学習
15	まとめと終講試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験 80 % 課題レポート 20 %		テキスト・参考書等 (医) 消化器 (医) 内分泌・代謝	
備考 専門基礎分野の基礎知識（消化器と内分泌・代謝）を元に看護の視点で講義が展開していく。 基礎的な知識を復習し講義に臨む。			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う			

授業科目 腎・泌尿器と生殖に障害を持つ人の看護	担当講師名 福元 奈菜 14H 専任教員 16H	単位数 1単位 時間数 30時間	対象学年 2年次
学習目標（ねらい） 腎・泌尿器と生殖器に障害のある対象の特徴を理解し、その状況に応じた看護が理解できる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	腎・泌尿器疾患における患者の特徴と看護の役割が理解できる	講義	教科書の単元内容を事前に読み臨む
2	急性腎不全をもつ患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	腎不全の病態と症状の事前学習を行う
3	慢性腎不全をもつ患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	腎不全の病態と症状の事前学習を行う
4	透析療法を受ける患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	透析療法の事前学習を行う
5	膀胱がん患者の看護が理解できる 尿路変更術を受ける患者の看護	講義 小テスト 演習	膀胱がんの病態と症状、尿路変更の事前学習を行う
6	前立腺肥大症患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	前立腺肥大症の病態と症状の事前学習を行う
7	腎臓摘出術を受ける患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	腎臓摘出術の事前学習を行う
8	生殖器に疾患をもつ患者の経過と看護が理解できる	講義	教科書の単元内容を事前に読み臨む
9	乳がん患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	乳がんの病態と症状について事前学習を行う
10	乳がん患者の看護が理解できる	講義 小テスト 演習	乳がんの病態と症状について事前学習を行う
11	子宮筋腫患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	子宮筋腫の病態と症状の事前学習
12	子宮がん患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	子宮がんの病態と症状の事前学習
13	卵巣がん患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	卵巣がんの病態と症状の事前学習
14	卵巣がん患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	卵巣がんの病態と症状の事前学習
15	まとめと終講試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験 80% 課題レポート 20%	テキスト・参考書等 (医) 腎・泌尿器 (医) 女性生殖器		
備考	専門基礎分野の基礎知識（腎・泌尿器と生殖器）を元に看護の視点で講義が展開する。 基礎的な知識を復習し講義に臨む。		
実務経験	看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う		

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
運動器・脳神経、感覚器 に障害を持つ人の看護	文園 晃子 10 H 臼元 勇次郎 (PT) 2 H 辺麦 サオリ 10 H 専任教員 8 H	時間数	30 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
1. 運動器疾患患者の特徴と看護が理解できる。 2. 脳神経疾患患者の特徴と看護が理解できる。 3. 眼疾患患者の特徴と看護が理解できる。 4. 話すことに障害のある対象とその看護が理解できる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	運動器疾患患者の特徴と看護の役割が理解できる	講義	教科書の単元内容を事前に読み臨む	
2	保存療法を受ける患者の看護が理解できる ギプス固定、牽引療法	講義 小テスト	単元の内容について事前学習を行う	
3	脊髄損傷患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	脊髄損傷の病態と症状の事前学習	
4	脊髄損傷患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	脊髄損傷の病態と症状の事前学習	
5	関節リウマチの看護が理解できる	講義 小テスト 演習	関節リウマチの病態と症状について事前学習を行う	
6	リハビリテーションの概要 MMT・関節可動域訓練	講義 演習		
7	脳神経疾患患者の特徴と看護が理解できる	講義・演習 小テスト	教科書の単元内容を事前読み臨む	
8	クモ膜下出血患者の看護が理解できる (1) 入院から治療までの看護 (2) 脳血管攣縮期の看護 (3) 回復期以降の看護	講義 小テスト 演習	クモ膜下出血の病態と症状について事前学習を行う	
9	クモ膜下出血患者の看護が理解できる (1) 入院から治療までの看護 (2) 脳血管攣縮期の看護 (3) 回復期以降の看護	講義 小テスト 演習	クモ膜下出血の病態と症状について事前学習を行う	
10	脳腫瘍患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	脳腫瘍の症状の事前学習を行う	
11	脳腫瘍患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	脳腫瘍の症状の事前学習を行う	
12	眼疾患患者の特徴と看護が理解できる 白内障・緑内障・網膜剥離の患者の看護が理解できる	講義・演習 小テスト	白内障・緑内障の病態と症状の事前学習	
13	喉頭摘出を受ける患者の看護が理解できる 喪失前後の看護	講義・演習 小テスト	喉頭がんの病態と症状の事前学習	
14	喉頭摘出を受ける患者の看護が理解できる 喪失前後の看護	講義・演習 小テスト	喉頭がんの病態と症状の事前学習	
15	まとめと終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験 95% 課題レポート 5%		テキスト・参考書等 (医) 運動器 (医) 脳・神経 (医) 眼 (医) 耳鼻咽喉	
備考				
専門基礎分野の基礎知識（運動器・脳神経、感覚器）を元に看護の視点で講義が展開する。基礎的な知識を復習し講義に臨む。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

成人・老年看護学実習

授業科目	担当講師名	単位数	2 単位	対象学年
成人・老年看護学実習 I	専任教員	時間数	90 時間	2 年次
学習目標				
成人・老年期にある対象の発達段階と健康状態を踏まえ、健康障害を持つ人の療養生活を支える看護を実践できる。				
単元：学習のねらい		学習内容・方法		
1. 対象の発達段階の特徴と身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面を統合し、対象を捉えることができる		1. 各病院実習 ・受持ち対象を 1 人選定し、日常生活援助を実施する。		
2. 対象の持てる力に視点をおき生活環境を整えるための援助が実践できる		2. 実践外活動 オリエンテーション リフレクション DVD 動画視聴 成人・老年看護学実習 I のまとめ		
3. 対象の健康状態に応じて問題解決型・目標志向型の看護を実践できる				
4. 多職種との連携に必要な保健・医療・福祉の機能や役割の実際について考えることができる				
5. 対象への看護実践を振り返り自己の看護観を育成できる				
評価方法 ・実習評価表（ルーブリック評価）に基づいて評価する		テキスト・参考書等 ・成人・老年看護学実習要項 ・関連する文献		
備考 ・基本的な基礎看護技術の原理・原則等しっかりと復習しておく。 ・実習病院の理念・概要や特徴について調べて臨む。				
実務経験 看護師として培ってきた豊富な経験をもとに指導する				

授業科目	担当講師名	単位数	2 単位	対象学年
成人・老年看護学実習 II	専任教員	時間数	90 時間	2 年次
学習目標				
成人・老年期にある対象の発達段階と健康状態が生活機能に与える影響を理解し必要な看護が実践できる。				
単元：学習のねらい		学習内容・方法		
1. 対象の発達段階の特徴と身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面を統合し、対象を捉えることができる		1. 各病院実習 ・受持ち対象を 1 人選定し、日常生活援助を実施する。		
2. 対象の健康障害が生活機能に与える影響を踏まえ持てる力を活用した援助を実践できる		2. 実践外活動 オリエンテーション リフレクション DVD 動画視聴 成人・老年看護学実習Ⅱのまとめ		
3. 対象の健康状態に応じて問題解決型・目標志向型の看護を実践できる				
4. 多職種との連携に必要な保健・医療・福祉の機能や役割の実際について考えることができる				
5. 対象への看護実践を振り返り自己の看護観を育成できる				
評価方法		テキスト・参考書等		
・実習評価表（ルーブリック評価）に基づいて評価する		・成人・老年看護学実習要項 ・関連する文献		
備考				
・基本的な基礎看護技術の原理・原則等しっかりと復習すること。 ・実習病院の理念・概要や特徴について調べて臨む。				
実務経験 看護師として培ってきた豊富な経験をもとに指導する				

授業科目	担当講師名	単位数	2単位	対象学年
成人・老年看護学実習Ⅲ	専任教員	時間数	90時間	3年次
学習目標				
成人・老年期にある対象の発達段階と健康状態に応じた治療・処置が対象に及ぼす影響について理解し、臨床判断を行うための基礎的な能力を養うことができる。				
単元：学習のねらい		学習内容・方法		
1. 対象の発達段階を把握し身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴を捉え看護に活かすことができる		1. 各病院実習 ・受け持ち対象を1人選定し、日常生活援助を実施する。		
2. 対象の健康障害、治療・処置が対象に与える影響に気づき、持てる力を引き出す援助を実践することができる		2. 実践外活動 オリエンテーション リフレクション DVD 動画視聴		
3. 多職種との連携に必要な保健・医療・福祉の機能や役割の実際について理解できる				
4. 対象への看護実践を振り返り自己の看護観を育成できる				
評価方法		テキスト・参考書等		
・実習評価表（ルーブリック評価）に基づいて評価する。		・成人・老年看護学実習要項 ・関連する文献		
備考				
・基本的な基礎看護技術の原理・原則等しっかりと復習しておく。 ・実習病院の理念・概要や特徴について調べて臨む。				
実務経験				
・看護師として培ってきた豊富な経験をもとに指導する				

授業科目	担当講師名	単位数	2 単位	対象学年
成人・老年看護学実習 IV	専任教員	時間数	90 時間	3 年次
学習目標				
成人・老年期にある対象の意思決定を尊重し、その人らしい療養生活を継続するための支援を 考えることができる。				
単元：学習のねらい		学習内容・方法		
1. 対象の発達段階を把握し身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴を捉え看護に活かすことができる		1. 各病院実習 ・受け持ち対象を 1 人選定し、日常生活援助を実施する		
2. 対象の健康障害、治療・処置が対象に与える影響に気づき、持てる力を引き出す援助を実践することができる		2. 実践外活動 オリエンテーション リフレクション DVD 動画視聴		
3. 多職種との連携に必要な保健・医療・福祉の機能や役割の実際について理解できる				
4. 対象の様々な場面における意思決定に関心を寄せ、支援的に関わることができる				
5. 退院後のその人らしい生活を継続するための支援を考える事ができる。				
6. 対象への看護実践を振り返り自己の看護観を育成できる。				
評価方法		テキスト・参考書等		
・実習評価表（ルーブリック評価）に基づいて評価する		・成人・老年看護学実習要項 ・関連する文献		
備考				
・基本的な基礎看護技術の原理・原則等しっかりと復習しておく。 ・実習病院の理念・概要や特徴について調べて臨む。				
実務経験				
・看護師として培ってきた豊富な経験をもとに指導する				

老 年 看 護 学

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
高齢者の生活を支える看護	専任教員	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 高齢者を理解しその人らしい生活を整えるための看護を理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	老年看護学概論の概要について理解できる 老いるということはどういうことなのか理解できる 高齢者が生きてきた時代について理解できる		講義 グループ ワーク	老年観について 事前レポート提出
2	老年期の発達段階、加齢に伴う変化について理解できる		講義 小テスト	講義前に事前学習 して臨む
3	加齢に伴う身体機能の低下により、日常生活にどのような 障害を及ぼされるか理解できる（高齢者疑似体験）		演習 グループ ワーク	疑似体験はジャー ジ着用
4	疑似体験したことを基に日常生活での身体面・精神面への 影響について理解できる		発表	積極的にディスカ ッションする
5	人口学的指標・健康指標からみる老年期について理解できる 我が国の高齢化課題について理解できる		講義	教科書の該当ペー ジを読んで臨む。
6	高齢者世帯と家族、高齢者の暮らし、高齢者の死亡について 理解できる		講義 小テスト	国民衛生の動向で 指標を確認し臨む
7	高齢者とヘルスプロモーションについて理解できる		講義	教科書の該当ペー ジを読んで臨む。
8	高齢者の医療の確保に関する法律について理解できる		講義	教科書の該当ペー ジを読んで臨む。
9	介護保険制度の仕組みとサービスについて理解できる		講義 小テスト	教科書の該当ペー ジを読んで臨む。
10	住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるようにするた めの地域包括ケアシステムを理解できる		講義	教科書の該当ペー ジを読んで臨む。
11	高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化について 理解できる		講義 DVD	教科書の該当ペー ジを読んで臨む。
12	高齢者の権利擁護について理解できる		グループ ワーク	各グループで調べ 学習を行い、まとめ て発表
13	高齢者の権利擁護について理解できる		グループ ワーク 小テスト	各グループで調べ 学習を行い、まとめ て発表
14	老年看護のなりたちおよび役割と責務について理解できる		グループ ワーク 講義	教科書の該当ペー ジを読んで臨む。
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 80% 課題 20%			テキスト・参考書等 老年看護学(医) 国民衛生の動向	
備考 ・社会の情報に関心を持ち、高齢者の課題など現状把握する。 ・グループワークでは、主体的に取り組む。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
高齢者の生活機能を	上稲葉 正紀 1 3 H	時間数	1 5 時間	2 年次
整える看護	平 さつき (ST) 2 H			
学習目標（ねらい） 高齢者の心身の変化にもとづいてアセスメントし、生活機能を整えるための看護を理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	高齢者の生理的特徴について理解できる ・身体的健康のアセスメント ・生活の自立状態のアセスメント ・心理・社会的健康のアセスメント ・環境・生活史のアセスメント		講義	高齢者の生活を支える看護で学んだ高齢者の4側面について想起する
2	高齢者の日常生活を支える基本的活動について理解できる ・基本動作・ADLの種類・日常生活動作の評価方法の理解 ・転倒のアセスメントと看護 ・廃用症候群のアセスメントと看護		講義 演習	高齢者の基本動作や活動についての評価基準の復習を行い臨む
3	食生活・摂食障害のアセスメントと看護について理解できる ・摂食嚥下能力・栄養状態のアセスメント ・食事・食生活のアセスメント ・口腔ケア、義歯の取り扱い方法の実際		講義 演習	基礎看護学での学びを想起し高齢者の特徴と統合して実施
4	高齢者の排泄ケアについて理解できる ・高齢者の尊厳を守る排泄ケア ・排泄障害・排泄パターンの変調とアセスメント		講義 演習	基礎看護学での学びを想起し高齢者の特徴と統合して実施
5	清潔のアセスメントと看護について理解できる ・清潔の意義とアセスメント ・清潔の援助（清拭、入浴、足浴、陰部洗浄）		講義 演習	基礎看護学での学びを想起し高齢者の特徴と総合して実施
6	生活リズムを整える看護を理解できる ・高齢者の生活リズムと変調についてのアセスメント ・睡眠と覚醒のアセスメント ・昼間のケア、夜間のケア		講義	高齢者の活動と休息について学習し臨む
7	高齢者とのコミュニケーションについて理解できる ・高齢者とのコミュニケーション能力のアセスメント ・高齢者のセクシュアリティ・社会参加について理解できる		講義	生活をする高齢者を知る実習を想起する
8	終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 80% 課題レポート 20%			テキスト・参考書等 (医)老年看護学 (医)老年看護学病態・疾患論	
備考 ・講義の前には必ずテキストを読んでおく。 ・主体的学習態度で臨む。				
実務経験 看護師としての培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目 治療を必要とする高齢者の看護		担当講師名 中田 博光 16H 上稲葉 正紀 14H	単位数 1単位 時間数 30時間	対象学年 2年次
学習目標（ねらい） 治療を必要とする高齢者の加齢変化の特徴を総合的に理解し、看護を実践できる知識と技術を習得できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	高齢者によくみられる症状を理解できる		講義 グループワーク	高齢者の特徴と臨床看護学での学習を統合して考える
2	症候のアセスメントと看護が理解できる ・発熱、痛み、掻痒感、脱水、嘔吐、浮腫、褥瘡・スキントラブル		グループワーク	高齢者の特徴と臨床看護学での学習を統合して考える
3	症候のアセスメントと看護が理解できる ・発熱、痛み、掻痒感、脱水、嘔吐、浮腫、褥瘡・スキントラブル		まとめ発表	高齢者の特徴と臨床看護学での学習を統合して考える
4	疾患を持つ高齢者の看護について理解できる ・脳卒中、心不全、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患		講義 グループワーク まとめ発表	発達段階の特徴と成人看護学での学びを想起
5	疾患を持つ高齢者の看護について理解できる ・認知症 パーキンソン病 肺炎、感染症		講義 グループワーク まとめ発表	発達段階の特徴と成人看護学での学びを想起
6	疾患を持つ高齢者の看護について理解できる ・骨粗鬆症、骨折などの運動器疾患		講義 グループワーク まとめ発表	発達段階の特徴と成人看護学での学びを想起
7	検査・治療を受ける高齢者の看護について理解できる 栄養ケア・マネジメントについて理解できる		講義	テキストを読み予習して臨む
8	薬物療法を受ける高齢者の看護について理解できる ・薬物アドヒアランス、薬物動態		講義	薬理学での学びを想起、高齢者の特徴と統合する
9	手術を受ける高齢者の看護について理解できる ・手術を受ける高齢者の特徴 ・術前・術後の看護マネジメント		講義 DVD	3年次のクリティカル看護で深める
10	リハビリテーションを受ける高齢者の看護について理解できる		講義	テキストを読み予習して臨む
11	入院治療を受ける高齢者の看護について理解できる		講義	テキストを読み予習して臨む
12	生活・療養の場における看護について理解できる		講義 DVD	生活する高齢者を知る実習を想起し理解する
13	高齢者のリスクマネジメント・看護師に求められる役割について理解できる ・高齢者と医療安全 ・高齢者と救命救急・高齢者と災害		講義 事例等	統合分野の学習に繋げられるように説明する
14	高齢者のリスクマネジメント・看護師に求められる役割について理解できる			
15	まとめと終講試験		実技試験	
評価方法 筆記試験 70% レポート、課題 30%			テキスト・参考書等 老年看護学 (医) 老年看護学病態・疾患論(医)	
備考 ・高齢者の生活を支える看護で学習した加齢に伴う身体的変化を復習して講義に臨む。 ・グループワークでは主体的に取り組む。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	2 単位	対象学年
生活する高齢者を知る看護実習	専任教員	時間数	9 0 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
地域・施設において対象の発達段階の特徴を理解し日常生活機能の程度に応じた援助を学ぶ。				
単元：学習のねらい		学習内容・方法		
<地域> 4 日間 1. 生きてきた時代、社会参加状況から生活を理解できる 2. 外観、活動の観察を通して健康観を理解できる 3. 対象の特性を踏まえてコミュニケーションを図ることができる 4. 老人福祉施設および介護保険法に基づく施設の特徴を理解できる 5. 施設で生活している事例の状況に応じた援助の実践と振り返りができる <施設> 6 日間 1 対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴の側面を捉えることができる 2. 対象の自立を目指した日常生活の援助が生活機能の視点から考えることができる 3. 保健・医療・福祉チームメンバーの職種の役割および連携の実際について理解できる		臨地実習 <地域> 1. 社会福祉施設 ディサービス デイケア 小規模多機能ホーム 看護小規模多機能ホーム 2. 公民館 3. 実践外活動 1) ロールプレイ 2) 事例演習 3) DVD 視聴 <施設> 1. 介護老人保健施設 ・施設で生活する対象を生活機能の観点からアセスメントし、その人らしい生活を送る意義を考える 2. 介護老人福祉施設 ・施設で生活する対象を生活機能の観点からアセスメントし、その人らしい生活を送る意義を考える		
評価方法		テキスト・参考書等		
・実習評価表（ルーブリック評価）に基づいて評価する		・生活する高齢者を知る看護実習要項 ・関連する文献		
備考				
・介護保険、地域包括ケアシステム、社会資源などの事前学習をしっかりと臨む。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導する				

小 児 看 護 学

授業科目 子どもの成長発達を支える看護		担当講師名 中山 孝子	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 子どもの成長・発達概念をふまえ、それを支援する看護を理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	子どもの概念を理解できる 子どもとは		講義 グループ ワーク	子どものイメージをもつ
2	子どもの成長・発達を理解できる ・成長・発達の進み方 成長・発達に影響する因子		講義	第2章「子供の成長・発達」の図表を見ておく
3	子どもの発達課題を理解できる ・発達段階の区分 ・小児の発達理論（エリクソン、ボウルビィ、ピアジェ）		講義	
4	子どもを取り巻く法律と制度、子供に関する政策について理解できる 児童福祉法 母子保健法		講義 グループ ワーク	法律と制度の調べ学習
5	子どもの権利擁護（児童憲章）について理解できる		講義	子どもの権利について読む
6	小児保健の統計と保健対策について理解できる ・母子保健 学校保健		講義	法律と関連させる
7	小児保健の統計と保健対策について理解できる ・予防接種		講義	
8	小児看護の特徴と変遷を理解できる ・小児看護の対象		講義	子どもと医療の変遷を読む
9	小児看護の特徴と変遷を理解できる ・小児看護の目標と役割 ・小児看護の変遷 ・小児看護の課題		講義	
10	子どもの成長・発達のアセスメントを理解できる ・成長の評価 身長・体重・胸囲・腹囲・骨・生歯		講義 ワークシート	図表を参考にする
11	子どもの成長・発達のアセスメントを理解できる ・発達の評価 知能指数・発達指数		講義	
12	小児期のセルフケア獲得と生活について理解できる ・育児支援		講義	基本的な生活習慣の確立（しつけ）を考える
13	子どもの栄養について理解できる		講義	
14	子どもを取り巻く環境と家族システムを理解できる ・現代家族の特徴と家族アセスメント		講義	子どもと家族の看護をとらえる
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 90 % 課題レポート 10 %			テキスト・参考書等 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医） 小児臨床看護学各論（医） 国民衛生の動向	
備考				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目 子どもの健康を支える看護		担当講師名 専任教員	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 子どもが健康な生活を維持できるよう、保健・医療・福祉の視点から看護を理解する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	子どもと家族の健康課題を理解する ・子どもと家族を取り巻く ・現代社会における子ども諸問題		講義 グループワーク	子供に関するニュースに関心を持つ
2	健康な小児の日常生活 小児特有の事故と安全対策		講義	小児各期に応じた安全対策
3	成人医療との協働について理解する 継続看護 成育医療		講義	現代社会の持つ課題も考える
4	健康障害を持つ子どもと家族の看護を理解する 病気・障害が子どもと家族に与える影響		講義	家族システム理論で考える
5	子どもの健康問題と看護を理解する ・健康問題を持つ子どもと家族の看護の方向性 ・健康問題を持つ子どもの生活にかかわる看護		講義	
6	子どもの健康問題と看護を理解する ・入院中の子供と家族の特徴		講義	子どもが入院するということは。
7	子どもの健康問題と看護を理解する ・外来における子供と家族の特徴		講義	外来受診する子どもと家族の心理
8	子どもにおける疾病の経過と看護を理解する ・慢性期にある子どもと家族の看護 成人期への移行を目指した支援		講義	
9	子どもにおける疾病の経過と看護 ・急性期にある子どもと家族の看護		講義	
10	小児期の手術の特徴		講義	
11	障害のある子どもと家族の看護 ・障害の捉え方と社会的支援		講義・グループワーク	発達障害と支援
12	子どもの虐待と看護を理解する ・虐待の種類・虐待を受けている子どもの特徴		講義 ディベート	虐待について考える
13	子どものアセスメントに必要な技術について理解する ・コミュニケーション ・バイタルサイン 身体計測		講義 演習	子どもの身体的特徴を大人と比較して考える
14	子どもの成長・発達のアセスメントを理解できる ・子どものフィジカルアセスメント		講義 演習	子どもの身体的特徴を大人と比較して考える
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 90 % 課題レポート 10 %			テキスト・参考書等 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医) 小児臨床看護学各論 (医)	
備考 ・小児期の周手術期の看護は「クリティカルケア」の科目で学ぶ。 ・小児の虐待については「その人中心の尊厳や権利を守る看護の実践」の科目でも学習する。 ・小児の「在宅療養の環境と役割」と「災害時の子どもと家族の看護」は「国際化する看護の広がり」と災害看護」の科目で学習する。 ・小児の終末期の看護は「エンド・オブ・ライフケア」の科目で学習する。 ＊関連する科目とつなげて学習を深める。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数 1 単位	対象学年
健康障害を持つ子どもの看護	藪田 由江	時間数 30 時間	2 年次
学習目標（ねらい）			
子どもの健康障害をアセスメントし必要な看護を展開できる基礎的知識を学ぶ。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	子どもに起こりやすい症状と看護を理解する ・不きげん 啼泣 発熱 発疹	講義	
2	子どもに起こりやすい症状と看護を理解する ・嘔吐 下痢 脱水 痙攣 痛み	講義	
3	入院中の子どもと家族の看護を理解する 入院中生活を支える看護 退院後と将来を見据えた看護	講義	子どもの病気の 捉え方を知る
4	外来における子どもと家族の看護を理解する プレパレーション ディストラクション コミュニケーション	講義 ロールプレ イ演習	
5	外来における子どもと家族の看護を理解する 外来の安全 感染予防 トリアージ ホームケア	講義 ロールプレ イ演習	
6	外来における子どもと家族の看護を理解する ・外来のトリアージ ホームケア指導 育児支援	講義 ロールプレ イ演習	ロールプレイで 特徴をつかむ
7	小児に特有な看護技術を学ぶ ・小児のフィジカルアセスメント技術	講義 演習	
8	小児に特有な看護技術を学ぶ ・小児のバイタルサイン測定技術	講義 演習	大人のバイタル サイン測定との 違いを知る
9	小児の主な検査・処置とその看護を学ぶ ・与薬 採血 輸液管理 ・浣腸 抑制	講義 演習	
10	小児の主な検査・処置とその看護を学ぶ ・骨髄穿刺 腰椎穿刺 ・酸素吸入 ネブライザー	講義 演習	
11	事例による看護展開ができる ・1型糖尿病 ・気管支喘息	講義 グループワ ーク	調べ学習が主で す
12	事例による看護展開ができる ・川崎病 ・ファロー四徴症	講義 個人・グルー プワーク	
13	事例による看護展開ができる ・白血病 ・ネフローゼ	講義 個人・グルー プワーク	
14	事例による看護展開ができる ・てんかん ・脳性麻痺（重症心身障害児）	講義 個人・グルー プワーク	
15	まとめと終講試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験 90 % 課題レポート 10 %		テキスト・参考書等 小児看護学概論 小児臨床看護 総論 (医) 小児臨床看護学各論 (医)	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う			

授業科目 小児看護学実習 (子どもの成長・発達を支える看護実習)	担当講師名 専任教員	単位数 2 単位 時間数 90 時間	対象学年 3 年次
学習目標 (ねらい) 1 小児各期の成長・発達を理解し対象を総合的に捉える。 2 子どもとその家族との良い人間関係を築くことができる。 3 子どもとその家族の健康問題を明確にし、解決に向けての援助ができる。 4 地域など子どもが生活している場での、保健・医療・福祉チームの役割と連携を理解する。 5 健全な子ども観を養う。			
単元：学習のねらい			学習内容・方法
1 地域で生活する子どもの看護（健康な乳幼児の特徴を理解する） 保育園実習 4 日間 目標 1) 小児の身体的・精神的・社会的側面より成長・発達を理解できる 2) 小児の成長・発達に応じた日常の生活援助ができる 3) 小児の安全を守るために必要な援助の実際について学ぶことができる 2 健康障害を持つ子どもの看護 病院 or 障害者施設の病棟 病院 or 障害者施設の外来 } 7 日間 1) 小児各期にある対象を総合的に理解できる 2) 小児及び家族の健康問題を明確にし、解決に向けての援助ができる 3) 小児の安全を守るために必要な援助の実際を知ることができる 4) 小児とその家族を通して小児保健対策の実際を知る事ができる 5) 小児とその家族との好ましいコミュニケーションがとれ良い人間関係を築くことができる 6) 重症心身障害児の特徴を知り、療育のあり方を学ぶことができる 7) 健全な子ども観を養う			保育園実習 遊びや食事を共にして、健康な乳幼児の成長・発達を確認する 病棟・外来実習 入院・外来の子どもと家族の理解と疾患の学習を行う
評価方法 ルーブリック評価表に基づいて総合的に評価する			テキスト・参考書等 小児看護学実習要項 関連する文献
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導を行う			

母 性 看 護 学

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
母性の理解と健康支援	福元 奈菜	時間数	20 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
1. 母性看護の基盤となる概念を理解できる。				
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解できる。				
3. 母性看護の対象の身体的、心理・社会的側面について理解できる。				
4. 女性のライフサイクル各期における看護について理解できる。				
5. リプロダクティブヘルス／ライツの視点から看護実践を理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	母性看護の基盤となる概念を理解できる ・母性とは ・母性看護の理念 ・母性、父性、親性の発達 ・母子関係、家族の発達		講義	第1章 A、B
2	セクシュアリティ、ヘルスプロモーションについて理解できる		講義	第1章 C、E
3	リプロダクティブヘルス、リプロダクティブヘルス/ライツについて理解できる		講義	第1章 D
4	母性看護における倫理、安全について理解できる 母性看護の役割について考えることができる		講義	第1章 G 各論第2章 B
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解できる ・母性看護の対象と取り巻く社会の変遷 ・母性看護にかかわる指標と法律 ・母性看護の提供システム		講義	第2章
6	母性看護の対象、女性のライフサイクル各期における健康と看護が理解できる ・思春期の健康と看護 ・性成熟期の健康と看護 ・更年期・老年期の健康と看護		講義	第3章 第5章
7	リプロダクティブヘルスケアについて理解できる ・不妊治療と看護 ・家族計画、望まない妊娠 ・人工妊娠中絶		講義	第6章 A～D 各論 第2章 A、C
8	リプロダクティブヘルスケアについて理解できる ・性暴力を受けた女性に対する看護 ・性感染症とその予防 ・喫煙と女性の看護について理解できる ・プレコンセプションケア		講義	第6章 E、F 各論第2章 C
9	周産期におけるこどもの虐待予防について理解できる 国際化社会における母性看護について理解できる		講義	第6章 G、H
10	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 100%			テキスト・参考書等 母性看護学概論（医） 母性看護学各論（医）	
備考				
講義前に、講義内容を確認し学習上の留意点にある章の該当ページを読んでくる。				
実務経験 看護師として培った経験をもとに講義演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
母子の健康と看護Ⅰ	大村 祥恵	時間数	3 0 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
妊娠・分娩期にある女性の身体的、心理的、社会的特性と生理的な変化についてアセスメントし、必要な看護が理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	子どもを産み育てることについて概観できる 周産期とは、産まれる、母性とは		講義	第1章
2	妊娠期の身体的特性、生理的变化が理解できる		講義	第3章A
3	妊娠期の心理・社会的特性が理解できる		講義	第3章B
4	妊娠とその診断、妊婦健康診査について理解できる 胎児の発育と健康状態の診断について理解できる		講義	第3章C
5	妊婦と胎児の経過の診断とアセスメントの視点が理解できる		講義	第3章C
6	妊婦が受ける母子保健サービスについて理解できる （妊婦の健康相談・教育、親になるための準備教育） 妊娠各期の妊婦と家族の看護が理解できる		講義	第3章D
7	事例をもとに妊婦と家族についての看護を考えることができる		グループワーク	第3章D
8	妊婦体験から安全、安楽な体位や行動について理解できる 妊婦健康診査で必要になる看護技術が実施できる （レオポルド触診、子宮底・腹囲測定、胎児心拍陣痛計装着）		演習	第3章C
9	分娩の3要素について理解できる		講義	第4章A
10	分娩の経過について理解できる		講義	第4章B
11	産婦と胎児の健康状態のアセスメントの視点が理解できる		講義	第4章C
12	産婦と家族の看護が理解できる		講義	第4章D
13	分娩期の看護が理解できる		講義	第4章E
14	分娩期の看護が理解できる ・安全、安楽な分娩への援助		講義 演習	第4章E 実習ガイド
15	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 100%			テキスト・参考書等 母性看護学各論（医） 母性実習ガイド 照林社	
備考				
講義前に、講義内容を確認し学習上の留意点にある章の該当ページを読んでくる。 また実習ガイドの講義内容に該当するページを確認し、読んでくる。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義、演習を行う				

授業科目 母子の健康と看護Ⅱ	担当講師名 福元 奈菜	単位数 1 単位 時間数 3 0 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 1. 新生児の生理的変化を理解し、必要な看護が理解できる。 2. 妊娠、分娩を踏まえ産褥期にある女性の身体的・心理的・社会的特性と生理的変化についてアセスメントし、必要な看護が理解できる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	新生児の生理について理解できる	講義	第 5 章 A①
2	新生児の機能について理解できる	講義	第 5 章 A②
3	新生児の健康状態のアセスメントの視点を理解できる	講義	第 5 章 B
4	新生児の看護について理解できる	講義	第 5 章 C
5	新生児に必要な看護技術が安全に実施できる 新生児の計測、バイタルサイン、全身の観察 採血介助、K2 シロップ投与	演習	母性実習ガイド
6	産褥経過について理解できる	講義	第 6 章 A
7	褥婦の産褥経過のアセスメントの視点が理解できる	講義	第 6 章 B①
8	褥婦の健康状態のアセスメントの視点が理解できる	講義	第 6 章 B②
9	褥婦に対する看護が理解できる	講義	第 6 章 C
10	褥婦と家族に必要な看護が理解できる	講義	第 6 章 C
11	褥婦、新生児の事例をアセスメントし、看護の方向性を考えることができる	グループワーク	
12	褥婦に必要な看護技術が安全に実施できる 子宮底の高さ、硬度・悪露 外陰部・肛門の観察 乳汁産生・分泌の観察 乳頭・乳輪マッサージ	演習	母性実習ガイド
13	育児に必要な看護技術が安全に実施できる 抱っこ、オムツ交換、清拭、沐浴 授乳（母乳、ミルク）、排気	演習	母性実習ガイド
14	母と子に必要な施設退院時の看護が理解できる 地域で安心して生活できる支援について考えることができる	グループワーク	第 5 章 C③ 第 6 章 D
15	まとめと終講試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験 8 0 % 課題 2 0 %		テキスト・参考書等 母性看護学各論（医） 母性実習ガイド 照林社	
備考 講義前に講義内容を確認し学習上の留意点にある章の該当ページを読んでくる。 また実習ガイドの講義内容に該当するページを確認し、読んでくる。			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義、演習を行う			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
周産期の異常と看護	亀山 美菜子	時間数	20 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
周産期の経過におこる異常と母子に与える影響、その予防と看護について理解できる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	妊娠の異常と母子に与える影響について理解できる ・ハイリスク妊娠とは ・妊娠持続期間の異常 ・妊娠持続期間の異常 ・妊娠期の感染症 ・多胎妊娠 ・異所性妊娠 ・妊娠疾患		講義	第 7 章 I A～F
2	妊娠の異常の予防とハイリスク妊婦のアセスメント、看護について理解できる		講義	第 7 章 I G
3	分娩の異常とアセスメントとその看護について理解できる ・産道の異常 ・娩出力の異常 ・胎児の異常による分娩障害 ・胎児の付属物の異常 ・胎児機能不全		講義	第 7 章 II ABCDE
4	分娩の異常とアセスメントとその看護について理解できる ・分娩時の損傷 ・分娩第 3 期、直後の異常 ・分娩時異常出血 ・産科処置と産科手術 ・異常のある産婦の看護		講義	第 7 章 II FGHIJKL
5	新生児の異常とアセスメント、その予防と看護について理解できる ・低出生体重児 ・高ビリルビン血症 ・新生児・乳児ビタミン K 欠乏症		講義	第 7 章 III
6	産褥の異常とアセスメント、看護について理解できる ・子宮復古不全 ・産褥期の発熱 ・産褥血栓症		講義	第 7 章 IVABC
7	異常のある褥婦の看護について理解できる ・帝王切開術後の看護について理解できる		講義	第 7 章 E
8	育児に困難さをかかえる母親への看護について理解できる 児を亡くした褥婦・家族の看護について理解できる		講義	第 7 章 F
9	メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援について理解できる ・妊婦、褥婦の心理・精神的変化を踏まえての予防 ・問題を抱える母親への支援		講義	第 7 章 III D 第 7 章 V
10	まとめと終講試験		筆記試験	
評価方法 筆記試験 100%			テキスト・参考書等 母性看護学各論（医）	
備考				
講義前に講義内容を確認し学習上の留意点にある章の該当ページを読んでくる。 母子の健康と看護Ⅰ・Ⅱの資料の活用、知識と関連させて受講する。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義、演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	2 単位	対象学年
母性看護学実習		時間数	90 時間	3 年次
(命の育みを支える看護実習)	専任教員			
学習目標 (ねらい)				
1. 正常な妊娠期の特徴を理解し、健康な生活のための指導や看護の必要性を理解できる。				
2. 正常な分娩、産褥期および新生児期の生理的変化を理解し、対象に応じた援助を考え実践できる。				
3. 命の育みを支える看護について考えることができる。				
単元：学習のねらい		学習内容・方法		
1. 妊婦健康診査を通して、妊婦の身体的・心理的・社会的特性を理解し、健康な生活のための指導や看護について考えることができる		<外来> 市立病院産科外来 2 日 ・外来の機能、外来における看護師の役割を考える ・妊婦健康診査、1 か月健診、母親学級		
2. 地域で生活する母と子の生活を知り支援の実際を学ぶことができる		実践外活動 2 日 ・地域の多様性に着目し、対象にどのような支援が必要か調べる。 ・調べた内容を学生間で共有する。		
1. 分娩・産褥期および新生児期にある対象の特徴の理解と対象に応じた看護を考え、安全に実施することができる		<病棟> 臨地 7 日 ① 分娩期にある対象を受け持ち、分娩経過をアセスメントし必要な援助を考える。 ② 指導のもと、見学実施する。 ・分娩室 (LDR) 等の見学 ・胎盤計測 ・帝王切開見学		
1) 分娩期				
2) 新生児期の対象を受け持ち、胎外生活への適応についてアセスメントし必要な観察援助を実施することができる		・出生直後の新生児の観察 (見学)・沐浴 (見学)		
3) 産褥期		① 産褥期にある対象を受け持ち、産褥日数などの対象の特徴を踏まえたアセスメントを行い、必要な援助を考える。		
		② 指導のもと、見学実施する。		
4) 妊娠、分娩、産褥、新生児の看護の学び、命の育みを支える看護について考える				
評価方法		テキスト・参考書等		
実習評価表に基づいて評価する				
備考				
・講義、演習を想起し効果的に実習で学べるよう、講義資料や実習課題など準備する。				
・施設での学び方の違いなど、オリエンテーションを十分に理解し実習に臨む。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに指導する				

精 神 看 護 学

授業科目	担当講師名	単位数 1単位	対象学年
心の健康を支える看護	専任教員	時間数 15時間	2年次
学習目標(ねらい)			
心の健康について理解し、心の健康を維持できる看護の基本的知識を学ぶ			
回数	単元:学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神看護学の基本的な考え方、心とはなにか、精神看護の視点について理解できる	講義	精神看護の基礎 I 1章 A
2	精神障害を持つ人の病の体験と精神看護について理解できる	講義	精神看護の基礎 I 1章 B
3	「心のケア」と日本社会と精神看護の課題について理解できる	講義	精神看護の基礎 I 1章 CD
4	精神の健康と障害の定義について学び精神保健の考え方を理解できる	講義	精神看護の基礎 I 2章
5	心のはたらきについて理解できる	講義・演習 プロセスレコード	精神看護の基礎 I 3章 A
6	心のしくみと人格の発達について理解できる	講義	精神看護の基礎 I 3章 B
7	関係の中の人間について学び精神看護の基本となる人間関係や基本的態度について理解できる。	講義・演習	精神看護の基礎 I 4章
8	終講試験		
評価方法 筆記試験 90% 課題レポート 10%		テキスト・参考書等 (医)精神看護の基礎	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う			

授業科目 精神障害における症状と 治療に応じた看護の展開	担当講師名 今村 健次	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） 精神障害における様々な症状や疾患の現れ方と分類、治療・リカバリーを促す看護展開について学ぶ			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神科を受診することについて理解できる	講義	11 章、事例を読んでおく
2	治療の器としての病院、病棟での入院治療の意味について理解できる	講義	事例を読んでくる
3	入院中の観察とアセスメントとケアの方向性について理解できる	講義	事例を読んでくる
4	入院中の観察とアセスメントとケアの方向性について理解できる	講義	事例を読んでくる
5	退院に向けての支援とその実際について理解できる	講義	11 章、事例を読んでおく
6	精神障害を持つ人の回復の意味を学び、リカバリーのビジョンについて理解できる	講義	9 章
7	治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点を理解できる	講義	9 章
8	リカバリーを促す環境について理解できる	講義	9 章ペテルの家の非援助思想から
9	リカバリーのプロセスについて理解を深める 当事者、もしくは関係者による話を聞き心の健康を支える看護について考える	講義	9 章
10	精神科における身体のケアについて理解できる	講義	12 章、事例を読んでおく
11	精神科における身体を通した看護ケアの実際について理解できる 急性期、回復期、慢性期、日常生活における身体ケア	講義	12 章、事例を読んでおく
12	精神科の治療に伴う身体のケアについて理解できる 薬物療法、電気けいれん療法を受ける患者	講義	12 章、事例を読んでおく
13	身体合併症のアセスメントとケア、終末期ケアについて理解できる	講義	12 章、事例（看取りも含む）
14	安全を守る、緊急事態に対処するリスクマネジメントの考え方と方法について理解できる	講義	13 章事例を読んでおく
15	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 100 %		テキスト・参考書等 （医）精神看護の基礎 精神看護の展開	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う			

授業科目 精神の健康障害の予防 や障害がある人への支 援技術	担当講師名 元脇 充	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標 (ねらい) 精神に障害を持つ人の多様性に応じた支援技術を学び当事者中心の看護実践の在り方を理解できる			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	社会の中の精神障害について理解できる 精神障害と治療の歴史について理解できる	講義	精神看護の基礎7章
2	精神障害と文化、社会学から見た精神障について学び疾患や障害の多様性をとらえることができる		精神看護の基礎7章
3	精神障害と法制度について理解できる		精神看護の基礎7章
4	主な精神保健医療福祉対策(自殺、依存、認知症)とその動向について理解できる		
5	ケアの前提と原則について理解できる	講義	精神看護の展開 8 章
6	ケアの方法について理解できる	講義・演習	
7	ケア関係をアセスメントすることができる	講義・演習	プロセスレコードの活用
8	関係の視点から見た困難事例の理解を深める	講義・演習	事例を読んでおく
9	地域におけるケアと支援について理解できる	講義	第10章
10	地域におけるケアと支援について理解できる 複合的問題、長期入院患者の退院支援、学校・職場のメンタルヘルスと看護	講義	第10章
11	身体疾患を持つ患者のメンタルヘルスについて理解できる 慢性身体疾患と精神科治療、精神症状 リエゾン精神看護	講義	1 4 章事例を読んでおく
12	リエゾナーズの活動の実際について理解できる	講義・演習	1 4 章事例を説んでおく
13	医療の場におけるメンタルヘルスと看護について理解できる	講義・演習	1 4 章事例を読んでおく
14	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて理解できる	講義・演習	1 6 章事例を読んでおく
15	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験		テキスト・参考書等 (医) 精神看護の基礎 精神看護の展開	
備考			
実務経験 本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

精神看護学実習 (心の健康を支える看護実習)	担当講師名 専任教員	単位数 2単位 時間数 90時間	対象学年 3年次
学習目標 (ねらい) 1. 精神の健康の保持・増進および精神に障害をもつ人の看護を実践するための基礎的能力を養う。			
単 元：学習のねらい		学 習 内 容 ・ 方 法	
精神デイケア実習 3日間 目的:精神の障害を持ち地域で生活する人の理解を深め、対象の社会復帰の場を理解する 目標: 1. デイケアの役割と機能が理解できる 2. 社会復帰活動における対象との関りを通して地域で生活する対象の理解を深めることができる 3. 対象と自己の相互作用を理解し受容的にかかわることができる		方法：精神デイケア ・デイケア活動にともに参加し、デイケアでの関わりを日々の記録とプロセスレコードで振り返りをする ・毎日カンファレンスを行い学びを深める ・最終レポート 「デイケア実習を通して学んだ地域で生活している精神に障害を持つ人の看護について」 ・最終レポートをもとに最終日は反省会を行う	
精神科病院実習 8日間 目的:精神に障害をもつ対象及び家族の理解を深め、精神の健康回復及び社会に適応するための看護を学ぶ 目標: 1. 精神障害のある対象及び家族を理解できる 2. 対象と自己の相互作用を理解し受容的にかかわることができる 3. 対象のストレングスあるいはレジリエンスに着目して関わるができる 4. 対象の日常生活活動における自立の程度に応じた看護援助ができる 5. 精神医療と地域社会との結びつきの重要性を、保健医療福祉の関連において理解できる 6. 対象への看護実践を振り返り、自己の看護観を育成できる		方法：鹿児島県精神科連携拠点機能病院 ・オリエンテーションを受ける ・受け持ち対象のストレングスを知り、強みを生かしたアプローチを行う。そのプロセスを振り返り、自己洞察につなげる ・地域での生活に向けた多職種連携を学ぶ ・看護実践を日々の記録とプロセスレコードで振り返る ・毎日カンファレンスを行い学びを深める 最終日は反省会を行う 方法：地域医療における精神科専門病院 ・オリエンテーションを受ける ・病棟内の構造、治療環境、生活環境の見学を行う ・薬物療法、作業療法、レクリエーション療法をうける対象と活動を共にし、対象理解を深める ・看護実践を日々の記録で振り返る ・毎日カンファレンスを行い学びを深める 最終日は最終カンファレンスを行う	
評価方法		テキスト・参考書等	
ルーブリックに基づいて評価する 実習評価表 出席状況 実習態度 実習レポート 自己学習などを踏まえ総合的に評価する		精神看護学実習要項関連する文献	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験を元に指導を行う			

領域横断

授業科目 クリティカルケア	担当講師名 専任教員	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 2 年次
学習目標（ねらい） クリティカルケアの概要と事例におけるクリティカルケアについて学習し、臨床判断の思考を用いながら看護の実践力を身につける。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	クリティカルケアの特性と成人、小児、高齢患者・家族の特徴を理解できる	講義	①1章②6章③序章
2	クリティカルケアの実践に必要なマネジメント、倫理・法律について理解できる ・患者安全・チーム医療・脳死と臓器移植	講義	安全教育、終末期倫理は他の科目で深める
3	クリティカルな患者の生体反応と呼吸・循環・代謝障害の病態・看護を理解できる	講義 ワークシート	①3章
4	クリティカルな患者の生体反応と呼吸・循環・代謝障害の病態・看護を理解できる	講義 ワークシート	①3章
5	周手術期の看護：術前、術中、術後について理解できる	講義	③6～9章参照ワークシートで予習
6	周手術期の看護：術前、術中、術後について理解できる	講義	③6～9章参照ワークシートで予習
7	クリティカルケアに必要な看護技術：観察と全身状態のアセスメントについて理解できる	講義	体液・循環・鎮痛・ドレーン管理事前学習
8	クリティカルケアに必要な看護技術：観察と全身状態のアセスメントについて理解できる	講義	
9	呼吸・循環・代謝障害があり、生命危機状態にある成人におけるクリティカルケア（循環器障害）について事例を通して学習し理解できる	事例学習	
10	成人におけるクリティカルケア（腹部手術）について事例を通して学習し理解できる	事例学習	事前学習 成人
11	小児におけるクリティカルケアについて事例を通して学習し理解できる	事例学習	③12章
12	老年におけるクリティカルケアについて事例を通して学習し理解できる	事例学習	③11章
13	術後の事例の状況に応じて臨床判断し必要な援助を行うための計画を立案し準備ができる	シミュレーション演習	
14	術後の事例の状況に応じて臨床判断し必要な援助を実践できる	シミュレーション演習	リフレクションシート提出
15	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 80% 授業の到達度 20 %		テキスト・参考書等（医）①クリティカルケア看護学②成人看護学総論 ③臨床外科看護総論 小児看護学 老年看護学 精神看護学	
備考 クリティカルケアを学ぶ上で指示された科目のテキストと学習上の留意点を参照し事前事後学習を行う。			
実務経験 看護師として培ったクリティカルケアの経験を基に講義・演習を行う			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
エンド・オブ・ライフ ケア	川崎 幸栄子	時間数	30 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
1. どのような人・状況であれ、最後までその人の尊厳を尊重した生き方を支える看護の意味と内容について自ら考えを深めることができる。				
2. 終末期にある子供を家族を含めてとらえ、その人と家族を尊重した看護を考えることができる。				
3. 終末期にある高齢者のその人らしさと、尊厳を考えた看護を考えることができる。				
4. 終末期にある成人の、その人らしさと尊厳を考えた看護を考えることができる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	エンド・オブ・ライフケアの概念をとらえ人生の最後の時を支える看護の目的について理解できる		講義 個人ワーク	成人看護総論 9 章 老年看護学 8 章
2	エンド・オブ・ライフケアにおける看護の実際を知り患者のいのちに寄り添うケアについて考えることができる		講義 個人ワーク	終了後レポート提出
3	様々な人・状況において尊厳を守る意思決定支援・多職種チームアプローチについて考えることができる		講義 個人ワーク	
4	エンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割・機能について理解できる		講義 グループワーク	終了後レポート提出
5	緩和ケアについて理解できる		講義	成人看護総論 9 章
6	緩和ケアについて理解できる		講義	老年看護学 8 章
7	末期段階に求められる援助について理解できる		講義	老年看護学 8 章
8	末期段階に求められる援助について理解できる		講義	老年看護学 8 章
9	小児における終末期の特徴と子供と家族の死のとらえ方について理解できる		講義	小児看護学Ⅰ 3 章
10	小児におけるエンド・オブ・ライフケアについて脳腫瘍の事例を通して考える		講義 グループワーク	終了後レポート提出
11	老年期における終末期の特徴と高齢者の死のとらえ方について理解できる		講義	老年看護学 8 章
12	老年におけるエンド・オブ・ライフケアについて肺炎の事例を通して考える		講義 グループワーク	
13	成人における終末期の特徴と死のとらえ方について理解できる		講義	成人看護総論 9 章
14	成人におけるエンド・オブ・ライフケアについて呼吸不全の事例を通して考える		講義 グループワーク	
15	まとめと終講試験			
評価方法			テキスト・参考書等	
筆記試験 80%			(医) 成人看護総論、老年看護学がん看護学 小児看護学Ⅰ	
課題レポート 20%				
備考				
実務経験 看護師として培った経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
その人中心の尊厳や権利を守る看護の実践	元脇 充 1 0 H 専任教員 1 0 H	時間数	2 0 時間	2 年次
学習目標（ねらい）				
1. その人中心の尊厳や権利を守ることにについて既習の知識を活用し、看護の視点から理解を深めることができる。				
2. 状況を読み解き、アセスメントして看護援助を考えることができる。				
回数	学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	その人中心の尊厳や権利を守る看護を考えることができる ・虐待、認知症、身体拘束、権利擁護、等 ・事例を考察する視点の確認 ・事例の提示【小児】		講義 個人ワーク	・状況を読み解き、看護の援助を考える ・既習の知識を想起する
2	事例【小児】の検討 ・子供虐待対策の経緯と現状を考えることができる ・求められるケアを考えることができる		演習 個人ワーク	※ 上記について個人の考えをまとめ提出する
3	事例【小児】の検討 ※ グループでの意見交換 発表資料作り		演習 グループワーク	個人レポートをグループで共有し、主体的に意見交換を行う
4	事例【小児】の検討 ※ 全体発表 意見交換 まとめ		演習	
5	事例【精神】の検討 ・治療上必要とされる制限について考えることができる ・当事者に寄り添い問題状況を検討することができる		演習 個人ワーク	・状況を読み解き、看護の援助を考える ・既習の知識を想起する
6	事例【精神】の検討		個人ワーク	※ 上記について個人の考えをまとめ提出する
7	事例【精神】の検討 ※ グループでの意見交換 発表資料作り		演習 GW	個人レポートをグループで共有し、主体的に意見交換を行う
8	事例【精神】の検討 ※ 全体発表 意見交換 まとめ		演習	主体的に意見交換を行う
9	状況における権利擁護の考察ができる ・示された事例について個人、およびグループで検討する		演習	
10	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 100%			テキスト・参考書等 関連がある学習資料を各自用意する	
備考 主体的な思考を大切にし、既習の知識の活用と、視野の拡大を意識する。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目 総合技術	担当講師名 専任教員	単位数 1 単位 時間数 3 0 時間	対象学年 3 年次
学習目標（ねらい） 既習の知識と技術を統合させ、目の前の状況に適した看護援助の実践ができる。			
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床判断を踏まえた看護の実践ができる ※対象の安全安楽、自立の視点から考えた援助 ※精神的側面を状況からとらえた配慮 ※以下の技術項目の演習計画を立案する ・前腕手術後の包帯法・三角巾固定 ・小児グリセリン浣腸・摘便 ・ストーマの管理（パウチ交換）・持続導尿・採血 ・静脈注射 側管注・経管栄養（経鼻）・血糖測定 ・十二誘導心電図 吸引（口腔・鼻腔・気管）	講義 演習	・グループで技術の演習計画を立案、実施する 演習には自己学習をして臨む
2	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
3	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
4	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
5	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
6	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
7	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
8	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
9	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
10	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
11	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
12	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
13	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
14	計画に沿って状況の臨床判断と看護の実践ができる	演習 ピア評価	
15	まとめ・終講試験		
評価方法 筆記試験 70% ピア評価 20% 課題 10%		テキスト・参考書等 学習資料を各自用意する	
備考 基礎技術をさらに状況に適応させた看護技術を身につける。			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う			

看護の統合と実践

授業科目 看護の探求		担当講師名 専任教員	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 3 年次
学習目標（ねらい） 研究とは何かを理解し、看護実践から自らの看護を探究し意味づけることができる。				
回数	学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	研究の基礎的知識を理解し、看護の探究の必要性について考えることができる ・看護における研究とは・リサーチクエスションとは ・文献レビューとその方法		講義	看護研究 第1章 第2章 第3章
2	研究における倫理的配慮、研究デザインについて理解できる。 研究デザインの選択、質的研究・量的研究		講義・演習	第4章 第5章
3	研究計画書の作成、事例研究について理解できる。		講義	第8章
4	文献クリテークができる。		講義・演習	第3章
5	研究のプレゼンテーションの方法、講評について理解できる		講義	第9章
6	過去の実習のエピソードから研究テーマを考えることができる		演習 個人ワーク	自主的に担当教員に指導を受ける
7	過去の実習のエピソードから研究テーマを考えることができる		演習 個人ワーク	
8	自己の研究計画書が立案できる		演習 個人ワーク	
9	計画書に沿って研究を進めることができる		演習 個人ワーク	
10	計画書に沿って研究を進めることができる		演習 個人ワーク	
11	計画書に沿って研究を進めることができる		演習 個人ワーク	
12	計画書に沿って研究を進めることができる		演習 個人ワーク	
13	原著論文を作成することができる		演習 個人ワーク	
14	抄録を作成することができる		演習 個人ワーク	提出期限を厳守する
15	研究の発表：講評		演習	
評価方法 筆記試験 30% 課題達成度：看護研究・発表・講評・主体的取り組みを総合的に評価する 70%			テキスト・参考書等 (医)看護研究 プリント	
備考実習での体験からリサーチクエスションを立て、自分で探究する。指導教員とは計画的に、かつ自ら主体的にアポイントを取り指導を受ける。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う。				

授業科目 看護とマネジメント	担当講師名 大山 もと子	単位数 1 単位 時間数 20 時間	対象学年 3 年次
学習目標（ねらい） 1. 事故防止の考え方と実践的な思考を身につけ、医療安全に対する自己の行動を自覚することができる。 2. 組織における看護の機能と看護活動の在り方、看護の質の管理及び改善への活動を理解する。 3. 専門職として自分自身のキャリアを重ねていくために看護職のキャリアマネジメントについて理解する。			
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	医療安全について理解できる ・事故防止の考え方 ・診療の補助・療養上の世話における看護事故	講義	医療安全 第1章 第2章 第3章 第4章
2	医療安全について理解できる ・多重課題とタイムプレッシャー、業務途中の中断 ・チーム医療とコミュニケーション ・感染事故対策（暴露防止） ・組織的な安全管理体制	講義	第2章 第3章 第4章
3	医療安全について理解できる 事例検討（個人ワーク・グループワーク）	演習	主体的に取り組む
4	看護マネジメントについて理解できる ・マネジメントに必要な知識	講義	看護管理 第1章 第2章
5	看護マネジメントについて理解できる ・組織の調整 動機づけ、パワーとエンパワーメント、 ・コンフリクト、変化と変革	演習	第5章
6	理論を活用した相互の学びを得て表現できる ・患者役を通しての学びと既習の知識を統合してのコーチングを考える（理論の学びを活かした助言ができる）	演習	下級生の技術演習に参加する
7	看護サービスのマネジメントが理解できる	講義	第4章
8	看護サービスのマネジメントが理解できる	講義	第4章第6章
9	看護職のキャリアマネジメントについて理解できる 自己のキャリア形成を考えることができる	講義 課題レポート	第3章 ※自己のキャリア形成についての考えと調べた知識をまとめる
10	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 75% 課題15% リーダーシップ演習10%		テキスト・参考書等 （医）医療安全 看護管理	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う			

授業科目 国際化する看護の広がり と災害看護	担当講師名 八代 利香 8H 専任教員 22H	単位数 1単位 時間数 30時間	対象学年 3年次
学習目標（ねらい） 1. グローバルヘルスや国際協力の仕組み、文化を考慮した国際看護の基礎知識を理解する。 2. 災害発生に備えた心構えと看護の方法を理解し、平常時から地域全体で備えるとともに被災時に被災地域や被災者に必要な看護について、主体的に考えることができる。			
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	国際化する看護について理解できる	講義	災害看護学・国際看護学第4章
2	国際化する看護について理解できる	講義	第4章
3	国際化する看護について理解できる	講義	第4章
4	国際化する看護について理解できる	講義	第4章
5	災害看護の基礎知識について理解できる	講義	第2章
6	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護について理解できる	講義	第2章
7	被災者特性に応じた災害看護の展開について理解できる ・子供・妊産婦に対する災害看護	講義	第2章
8	被災者特性に応じた災害看護の展開について理解できる ・高齢者に対する災害看護 ・慢性疾患患者に対する災害看護	講義	災害看護学・国際看護学第2章 老年看護学第10章
9	被災者特性に応じた災害看護の展開について理解できる ・精神障害者に対する災害看護 災害と心のケア	講義	災害看護学・国際看護学第2章 精神看護の展開第15章
10	被災者特性に応じた災害看護の展開について理解できる ・特殊な災害による災害看護	講義	災害看護学・国際看護学第2章
11	トリアージの実際が理解できる	演習	第2章 プリント
12	トリアージの実際が理解できる	演習	プリント
13	図上シミュレーションにおいて避難所の運営と看護が表現できる	演習	グループワーク
14	避難所の運営と看護が表現できる 全体発表	演習	外部者からの講評を受ける
15	まとめと終講試験		課題レポート： 筆記試験
評価方法 筆記試験 80% 課題達成度： 出席状況・グループ貢献度・課題レポート 20%		テキスト・参考書等 (医)災害看護学・国際看護学 プリント	
備考			
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
多様な状況での看護実践	専任教員	時間数	20 時間	3 年次
学習目標（ねらい）				
1. 場や状況に応じた判断力、統合力を結集し、看護を創造し実践することができる。				
2. 臨床の場における対象者中心とした多職種連携の在り方を述べることができる。				
回数	学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	臨床の場で起こりうる事例の理解ができる ：事例の提示 1) 事例に対する看護実践と多職種連携のイメージ化		講義	（卒業到達度Ⅱ,Ⅲ,Ⅳレベル項目の活用）
2	臨床の場で起こりうる事例の理解ができる		個人ワーク	
3	臨床の場における対象者と多職種連携の目標に向けた連携について考え表現できる		講義 個人ワーク	事例における看護職の役割と責務について考える
4	臨床の場における対象者と多職種連携の目標に向けた連携について考え表現できる ：事例検討		演習 グループワーク	
5	臨床の場における対象者と多職種連携の目標に向けた連携について考え表現できる ：コミュニケーション		演習	多職種の学生と意見交換
6	臨床の場における対象者と多職種連携の目標に向けた連携について考え表現できる ・ケアカンファレンス ・リフレクション		演習	多職種の学生と意見交換
7	臨床場面に即した環境下での安全な看護実践ができる 提示された事例の対象のイメージ化		講義 個人ワーク	（卒業到達度Ⅰレベル項目の活用）
8	臨床場面に即した環境下での安全な看護実践ができる 知識及び技術の確認		個人ワーク	
9	臨床場面に即した環境下での安全な看護実践ができる ・臨床看護の実践能力試験 ①時間内に実施 ②割り込み状況への対応 ③模擬患者・受験者・試験官での振り返り ④評価		実技試験	状況に応じた看護の実践を行う
10	まとめと終講試験			
評価方法			テキスト・参考書等	
筆記試験			45%	
他職種連携でのグループワークの取り組み等			30%	
臨床看護実践能力試験			25%	
備考				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う				

授業科目	担当講師名	単位数	2単位	対象学年
看護マネジメント実習	専任教員	時間数	90時間	3年次
学習目標（ねらい）				
1. 複数の対象の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解できる。				
2. 対象を全人的に捉え、状況や場に応じて既習の知識・技術を引き出し、統合させ、看護を実践する能力を養う。				
学習のねらい		方法 学習上の留意点		
1. 複数の対象を受け持ち、ケアの優先順位を判断しながら看護が実施できる		病院実習 約5人編成 夜間実習においては、1名の教員が巡回 1週目) 複数受け持ち対象の情報収集、看護師のシャドウイング、看護援助の実践 2週目) 師長、リーダー、メンバー、夜間実習をローテーションしながら体験 3週目) 複数受け持ち対象の看護援助の実践 1. 複数受け持ち対象の看護の理解 1) 対象に立案されている看護計画と援助の理解 2. 看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割 1) 医師への報告、連絡調整 2) チーム及びスタッフへの連絡調整 3) 病院内外への部門との連絡調整 3. 病棟管理者の役割と業務 1) 病床管理 2) 安全管理 3) 他部門との連絡調整 4) 看護部組織の中での報告・連絡・調整の実際 4. 夜間帯の対象の生活と看護活動 1) 夜間の日常生活援助の理解 2) 夜間時間の対象の反応 5. 複数受け持ち対象への援助 1) 複数の対象の援助の優先順位と時間配分を考えた日々の計画立案 2) 一人の対象に必要な複数の援助の優先順位と時間配分の調整 3) 対象の変化、状況の変化、作業の中断など流動的環境のなかでの援助の実践 4) 学びのまとめ		
2. 病棟管理の実際、他部門との調整などを通して看護管理の実際が理解できる				
3. 看護マネジメント実習で学んだことを通しチームの一員としての、自己の目標を明確にすることができる				
評価方法 看護の思考過程と看護の実践、振り返りの到達度により総合的に評価する		テキスト・参考書等 必要な資料を各自用意する		
備考				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義を行う				